

長崎県埋蔵文化財調査年報23

〔平成26年度調査分〕

2016

長崎県教育委員会

裏
表
紙
白
紙

はじめに

長崎県には、3,800箇所を超える多くの周知の遺跡があり、これらは国民共有の財産としてしっかりと保存・活用を図っていく必要があります。また、発掘調査により得られた資料や知見についても、県民の皆様の郷土理解に役立てるなど情報発信に積極的に取り組むことが我々の責務の一つです。

平成26年度、長崎県教育委員会では、九州新幹線西九州ルートの建設に伴う竹松遺跡の本調査のほか、遺跡の全容解明を目的とした原の辻遺跡の範囲確認調査や、史跡範囲の追加指定を目的とした鷹島海底遺跡の分布調査（潜水調査）など30件の発掘調査を実施しました。調査成果については、報告書発行のほか、現地説明会や展示、広報誌などを通して情報発信と普及啓発に努めたところですが、今後も引き続き研究成果の発信と活用内容の充実を図っていきたいと考えております。

本書は、平成26年度に長崎県教育委員会が行った全ての発掘調査について、調査内容と成果を概要として記したほか、長崎県埋蔵文化財センターが行った調査研究や遺物の保存処理、展示、普及啓発などの事業概要について掲載しておりますので、地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、御指導、御協力をいただきました関係各位にお礼を申し上げますとともに、今後とも一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月

長崎県教育委員会教育長

池松誠二

例　　言

- 1 本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成26年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。
- 2 調査概要の遺跡位置図は国土地理院発行の地図（1／25,000）を使用している。
- 3 各遺跡の調査担当者と調査概要の執筆者は文末に記している。
- 4 本書の編集は長崎県埋蔵文化財センターが行った。

本　文　目　次

1. 長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状	1	
(1) 県が実施した公共工事に伴う発掘調査の現状	1	
(2) 本県の埋蔵文化財保存活用事業	2	
(3) 長崎県埋蔵文化財センターの事業		
①調査研究事業	4	
②保存処理事業	4	
③教育普及事業	6	
④東アジア考古学研究事業	10	
2. 平成26年度 県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧	12	
3. 平成26年度 県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧	12	
4. 事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移		
(1) 事業別発掘調査届出件数の推移	13	
(2) 県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移	13	
5. 平成26年度における発掘調査の履歴	14	
6. 平成26年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要	【】内は長崎県道跡調査番号	
(1) 富の原（常磐）遺跡　(試掘・範囲確認)	【201402】	16
(2) 頭ヶ島白浜遺跡　(本調査)	【201412】	17
(3) 鷹島海底遺跡　(分布調査)	【201413】	18
(4) 原の辻遺跡　(範囲確認)	【201423】	19
(5) 野口遺跡　(範囲確認)	【201420】	20
(6) 野口前遺跡　(範囲確認)	【201421】	21
(7) 小手田遺跡　(本調査)	【201422】	22
(8) 下羽付遺跡　(範囲確認)	【201430】	23
(9) 竹松遺跡　(本調査)	【201403】	24
(10) 竹松遺跡　(本調査)	【201404】	25

(1 1) 竹松遺跡	(本調査)	【2 0 1 4 0 5】	· · · 2 6
(1 2) 竹松遺跡	(本調査)	【2 0 1 4 0 6】	· · · 2 7
(1 3) 竹松遺跡	(本調査)	【2 0 1 4 0 7】	· · · 2 8
(1 4) 竹松遺跡	(本調査)	【2 0 1 4 0 8】	· · · 2 9
(1 5) 竹松遺跡	(試掘・範囲確認)	【2 0 1 4 1 7】	· · · 3 0
(1 6) 竹松遺跡	(試掘・範囲確認)	【2 0 1 4 1 6】	· · · 3 1
(1 7) 竹松遺跡	(本調査)	【2 0 1 4 1 9】	· · · 3 2
(1 8) 竹松遺跡	(範囲確認)	【2 0 1 4 2 6】	· · · 3 3
(1 9) 大堂遺跡	(試掘・範囲確認)	【2 0 1 4 0 1】	· · · 3 4
(2 0) 今富城跡	(試掘)	【2 0 1 4 0 9】	· · · 3 5
(2 1) 三城城下跡	(範囲確認)	【2 0 1 4 1 1】	· · · 3 6
(2 2) (仮)小路口遺跡	(試掘)	【2 0 1 4 1 0】	· · · 3 7
(2 3) 大忠平遺跡	(試掘)	【2 0 1 4 1 5】	· · · 3 8
(2 4) 妙光寺跡	(試掘)	【2 0 1 4 1 4】	· · · 3 9
(2 5) 西の谷遺跡	(試掘)	【2 0 1 4 1 8】	· · · 4 0
(2 6) 沖田黒丸条里跡	(範囲確認)	【2 0 1 4 2 4】	· · · 4 1
(2 7) 平野遺跡	(試掘)	【2 0 1 4 2 5】	· · · 4 2
(2 8) 立小路遺跡	(試掘)	【2 0 1 4 2 7】	· · · 4 3
(2 9) 岸高遺跡	(試掘)	【2 0 1 4 2 9】	· · · 4 4
(3 0) 平ノ前城跡	(試掘)	【2 0 1 4 2 8】	· · · 4 5

(報告書抄録)

1. 長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

(1) 県が実施した公共工事に伴う発掘調査の現状

本県では九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に伴う発掘調査を本格的に実施しており、平成21年10月末と平成25年8月に実施した分布調査により13遺跡28ヶ所（試掘12ヶ所・範囲確認調査13ヶ所・本調査3ヶ所）で事業着手前に調査が必要であることが確認されている。また、長崎までの同時着工が平成23年に認められ、大村市内竹松遺跡周辺に計画されていた新幹線の保守基地が車両基地に格上げされたため、建設予定面積が約11万m²となり、発掘調査の規模がさらに増大している。調査は用地買収の進捗に合わせて着手しており、平成27年度までに試掘・範囲確認調査、平成28年度までに本調査を完了する予定である。

平成26年度は、大村市竹松遺跡において車両基地と路線部分を含め5調査区、約36,000m²の本調査を実施している。主な遺構としては、堅穴建物跡が5基、掘立柱建物跡が20棟、甕棺墓12基、石棺墓6基、土壙墓8基などを検出しており、縄文時代から中世まで連続と集落や墓地が形成されていたことがわかる。

特筆する遺構としては、古墳1基が確認されている。直径15mの円形で、主体部や墳丘はほぼ残っておらず、周溝部のみ残存している。周溝内から土師器壺や高杯が出土しており、遺物の特徴から古墳時代前期の古墳であることが推測される。また、中世前期の区画溝も検出された。1辺が約100mあり、南北の両端角が確認されている。区画の内側には約6棟の建物跡があり、貿易陶磁器や石鍋、土師器などが多数出土している。12世紀後半から14世紀初頭の遺構と考えられている。その他、古代から中世にかけての県内では出土例を見ない遺物も出土している。特に土馬や仏塔などは、奈良時代から平安時代の、特に官衙や寺院それに関連する集落から出土する例が多く、近隣に関係する遺構が存在することが推測される貴重な資料である。

また、新幹線路線と平行した位置に予定されている都市計画道路の建設においても竹松遺跡の調査が実施され、縄文時代から近世までの柱穴や溝などが確認されている。

その他、県北地区の平戸市田平町では県道改良工事に伴い小手田遺跡の発掘調査を約1500m²の範囲で実施し、古墳時代から中世にかけての掘立柱建物跡や柱穴を検出した。



大村市竹松遺跡出土「土馬」



大村市竹松遺跡区画溝検出状況

(2) 本県の埋蔵文化財保存活用事業 ~ 明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業 ~

○開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

- 目的 (1)開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。
(2)文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期 日 平成26年5月23日(金)

会 場 長崎歴史文化博物館1階ホール

参加者 • 県及び市町開発部局担当者

• 県及び市町文化財担当者(実務経験3年末満を主体) 計 72名

内 容 • 埋蔵文化財諸届に関する確認事項

• 埋蔵文化財関係補助金制度の説明

• 専門(技術)研修について



開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修風景

○長崎県市町文化財保護行政主管課長会議・担当者会議

目的 市町文化財保護行政主管課の課長及び担当者に、文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議などを行うことにより専門的な資質を向上させ、本県文化財保護行政の適切かつ円滑な推進を図る。

期 日 平成26年11月20日(木)

会 場 長崎県出島交流会館

参加者 県及び市町文化財行政担当者 計 46名

内 容 • 文化財保護体制の構築について

~『適正な埋蔵文化財行政を担う体制等の構築について』(報告)~

• 現状変更に対する適切な対応について

• 文化財関係補助金について

• 事例報告「文化財保護ネットワークについて」(対馬市教育委員会)

• その他、市町からの協議・照会事項に対するグループ協議

○埋蔵文化財担当者専門技術研修

目的 長崎県内の遺跡から出土した資料の恒久的な保存と活用を行うための基礎的な考え方および技術を習得する。

日 時 平成26年12月5日（木）・6日（金）

会 場 長崎県埋蔵文化財センターおよび原の辻遺跡発掘現場

参加者 県内市町埋蔵文化財担当者 6名

内 容

- ・保存処理施設説明
- ・金属製品保存処理実習
- ・精密分析機器による調査実習（黒曜石の螢光X線分析）
- ・原の辻遺跡発掘現場見学



埋蔵文化財担当者専門技術研修風景



黒曜石の螢光X線分析実習



鉄器の銷取り実習



銅製品のクリーニング実習

（3）長崎県埋蔵文化財センターの事業

①調査研究事業

長崎県埋蔵文化財センターが行う発掘調査には重要遺跡情報保存活用事業として国庫補助を受けて実施する原の辻遺跡の範囲確認調査および鷹島海底遺跡の分布調査と、国・県の開発に伴って行う分布調査、範囲確認調査、本調査がある。

今年度の原の辻遺跡の範囲確認調査は丘陵南側の原ノ久保地区において「弥生時代の墓域」の確認を目的に平成26年10月14日～平成27年1月8日にかけて実施した。調査の結果弥生時代の遺構は全く検出されず、表土直下から旧石器時代のナイフ形石器文化期の石器が原位置を保って多数出土した。黒曜石製石器については全点蛍光X線分析によって原産地推定を行い、原の辻遺跡における石材需給システムの解明に向け貴重な資料となった。

2年目を迎えた鷹島海底遺跡の分布調査は、平成26年8月17日～8月26日にかけて床浪地区の前年度調査区東側に200m×50m(1万m²)の範囲で遺物分布状況を調査した。その結果遺物集中地点を2箇所確認し、陶磁器をはじめとする123点の遺物を確認した。

開発に伴う調査としては、主要地方道平戸田平線道路改良工事に伴う小手田遺跡の本調査を平成26年11月25日～平成27年2月25日に実施し、中世の掘立柱建物跡などの遺構や多くの遺物を検出した。範囲確認調査としては富の原（常盤）遺跡（大村市）、下羽付遺跡（佐世保市）の発掘調査を実施した。

市町支援事業として新上五島町の頭ヶ島白浜遺跡の本調査を実施したが遺構・遺物は検出されなかつた。また、農道整備に伴う川棚町野口遺跡・野口前遺跡の範囲確認調査を実施し、野口前遺跡では中世～近世にかけての板碑・集石遺構が検出されたが、工事設計変更で保存することになった。

②保存処理事業

県保有資料の保存処理を、国庫補助を活用して行っており、平成26年度は木製品17点、金属製品306点、骨角製品1点の計324点の保存処理を行った（表1）。

木製品の保存処理はPEG含浸処理法を中心に真空凍結乾燥法、糖アルコール含浸処理法等を行っている。本年度は大型木製品の保存処理を行っており、平成26年度にPEG（ポリ・エチレン・グリコール）を50%水溶液まで含浸させ、平成27年度に真空凍結乾燥処理を行う予定で保存処理を実施している。

金属製品は主に鉄製品と銅製品に大別されるが、いずれも透過X線撮影等事前調査を実施したのち、錯



大型木製品のPEG含浸処理



鉄製品の樹脂強化含浸処理

取り作業→脱塩処理（銅製品はB T A処理）→樹脂強化含浸処理→接合・修復を実施した。

骨角製品は顕微鏡下でメスなどを用いて表面のクリーニングを行った後、超音波洗浄機を用いて空隙に残る土砂を取り除く処理を行った。

表1 平成26年度国庫補助事業による保存処理一覧

○木製品：17点

遺跡名	所在地	材質	処理点数	処理方法	備考
万才町遺跡	長崎市	木	2点	アクリル樹脂強化	長崎県文化財調査報告書第123集
長崎奉行所跡	長崎市	木	5点	PIG含浸処理 →	長崎県文化財調査報告書第177集
出島と蘭商館跡	長崎市	木	10点	807年度真空凍結乾燥処理	長崎県文化財調査報告書第184集

○金属製品：306点

遺跡名	所在地	材質	処理点数	処理内容	備考
原の辻遺跡	壱岐市	鉄	3点		長崎県埋文センター報告書第12集
銀城跡	壱岐市	銅・青銅	1点		原の辻調査事務所報告書第3集
掛木古墳	壱岐市	鉄	1点		長崎県文化財調査報告書第106集
石田城跡	五島市	鉄・銅	12点		長崎県文化財調査報告書第139集
大浜遺跡	五島市	鉄・銅	2点		長崎県文化財調査報告書第141集
妙泉寺古墳群	壱岐市	鉄・銅	3点		長崎県文化財調査報告書第156集
采町遺跡	長崎市	鉄・銅	251点		長崎県文化財調査報告書第162集
長崎奉行所跡	長崎市	鉄・銅	22点		長崎県文化財調査報告書第183集
万才町遺跡	長崎市	鉄・銅	3点		長崎県文化財調査報告書第192集
刎木城跡	西海市	銅・青銅	1点		長崎県文化財調査報告書第197集
出土地不明		鉄	5点		普及啓発資料
旧美術博物館		銅・青銅	2点		旧美術博物館所蔵物

○骨角製品：1点

遺跡名	所在地	材質	処理点数	処理内容	備考
万才町遺跡	長崎市	骨	1点	クリーニング	長崎県文化財調査報告書第162集

合計：324点

また県内市町が保有する資料に関しても所定の申請を行えば保存処理施設の利用を許可しており、平成26年度は6市からの利用があり計53点の保存処理を行った（表2）。

表2 県内市町保存処理点数一覧

市町名	利用機関	種別	点数
壱岐市	壱岐市文化財課	金属製品	20
壱岐市	壱岐市文化財課	骨角製品	15
壱岐市	壱岐市文化財課	木製品	9
雲仙市	雲仙市教育委員会	繩文土器	1
大村市	大村市教育委員会	金属製品	1
西海市	西海市教育委員会	金属製品	3
佐世保市	佐世保市教育委員会	木製品	1
長崎市	長崎市経済局	金属製品	3



鉄製品の銷取り風景（西海市）

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査も行っている。外部利用も受け入れており、平成26年度は7機関が、実体顕微鏡撮影装置、透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置、三次元計測器などを利用した（表3）。

表3 平成26年度精密分析機器外部利用一覧

利用時期	利用者	利用内容	使用機器
2014年5月	松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土鉄器の事前調査	透過X線撮影
2014年6月	山口県岩国市	北方古墳出土耳環の調査	蛍光X線分析装置
2014年6月	壱岐市教育委員会	石路遺跡出土鉄器の保存処理	透過X線撮影、精取り装置
2014年6月	壱岐市教育委員会	木製品の保存処理	PEG含浸装置
2014年7月	大分県立歴史博物館	メダイの調査	蛍光X線分析装置・三次元計測
2014年8月	対馬市教育委員会	かがり松鼻遺跡出土銅製品の調査	顕微鏡、蛍光X線分析装置
2015年1月	雲仙市教育委員会	諶文土器の保存処理	ドラフトチャンバー
2015年1月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2015年2月	松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土鉄器の事前調査	透過X線撮影
2015年2月	佐世保市教育委員会	鉄器の保存処理	透過X線撮影、精取り装置
2015年3月	佐世保市教育委員会	陶磁器の分析	蛍光X線分析装置

③教育普及事業

＜オープン収蔵展示＞

調査研究の成果を併設する壱岐市立一支国博物館のオープン収蔵庫（高さ5mのガラス張りで、キッズこうごく研究所および博物館2階より内部を見ることができる収蔵庫）を活用して遺物の展示を行っている。

平成26年度は以下の3つのテーマで遺物展示を行った。



『発掘！水のいきもの展』展示風景

テーマ	主な展示品	期間
『発掘！水のいきもの展』	イキウス化石（壱岐市）、クジラ骨格標本（壱岐市）、鯨底の縄文土器（宮下貝塚）、魚骨（原の辻遺跡）、貝類・あわびおこし・骨鉗・劫鍔車（カラカミ遺跡）、土層はぎとり（カラカミ遺跡）、青花魚文鉢（長崎奉行所跡）	平成26年6月3日 ～ 平成27年9月28日
『女性の装い展』	玦状耳飾（伊木力遺跡）、貝輪（宮下貝塚）、ガラス玉（原の辻遺跡）、管玉・勾玉（景華園遺跡）、弥生時代の再現衣装（壱岐市）、耳環（妙泉寺古墳）、下駄・金属製簪・ガラス製簪（長崎奉行所跡）、紅皿（栄町遺跡）、柄鏡（民俗資料）	平成26年9月30日 ～ 平成27年2月3日
『華・香・茶・書 －文化を支えた道具たち－展』	染付箋形花入（万才町遺跡）、染付聞香炉（長崎奉行所跡）、瑠璃釉鳥形合子（栄町遺跡）、瀬戸黒茶碗・肩衝茶入・朱泥急須（万才町遺跡）、刷毛目小碗（長崎奉行所）、色繪鶴形水滴（桜町遺跡）、三彩硯（栄町遺跡）	平成27年2月3日 ～ 平成27年5月31日

<情報誌>

子ども向け情報誌として「キッズこうごがく」を見開き4ページの構成で6月および12月に発刊した。「キッズこうごがく」は「キッズこうごがく研究所」の紹介や、子どもたちの考古学への興味・関心を楽しみながら高める意図した「マイブンクエスト」などの記事を掲載しており、県内学校や教育機関などに配布し、ホームページにも掲載している。



「キッズこうごがく」第9号

<ホームページおよびFacebookの公開更新>



センターホームページ

ホームページ (<http://www.nagasaki-maibun.jp/>) には『施設案内』のほか、近年の発掘成果を紹介している『発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物やキッズこうごがく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書などを掲載している。

また、平成26年9月からは Facebook を立ち上げ

て (<https://fb.com/1461241530809034>)、親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。



センターFacebook

<体験学習>

『精密分析機器で調べてみよう』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を年間10回行っている。子どもたちに分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを、精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。平成26年度は10回の開催で計60名の参加があった。



『精密分析機器で調べてみよう』

<一支国博物館5周年記念イベント>

平成27年3月14日にセンターと一支国博物館はオープン5周年を迎える。同博物館内で記念イベントが開催されるのに伴い、センターでは『プレミアムバックヤードツアー』と題し保存処理施設や収蔵庫などを案内するイベントを実施した。定員10名を2回の予定であったが、参加希望者が多かったため3回実施し、計36名の参加があった。



『プレミアムバックヤードツアー』

＜資料貸出・閲覧・掲載許可＞

収蔵する出土品の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適当であれば許可している。平成26年度は27件の申請があり約2千点に関して対応した。

平成26年度実績	件数	点数
考古資料等貸出	6	16
考古資料閲覧	5	1992
写真等掲載許可	16	26
計	27	2034

＜長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援事業＞

本センターの特色ある取組の一つとして、壱岐高校東アジア歴史・中国語コースへ年間を通して授業支援がある。この取組では、センター職員がコースの授業を担当したり体験入学等を支援したりしている。平成26年度は、1年生の「歴史学入門」を9回、3年生の「課題研究」を5回実施した。なお、2年生は

長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援事業一覧

1 学校設定科目の授業に関すること

1年歴史学入門			3年課題研究			
月	日	曜	授業名	担当者	授業名	担当者
4	14	月			課題研究支援①	古澤・楠本
5	7	水	博物館・センター見学	片多・楠本		
	14	水	歴史学入門	楠本		
	2	水	東アジアの地誌 ※2年も	古澤		
7	7	月			課題研究支援②	古澤・楠本
	9	水	東アジアの歴史 ※2年も	古澤		
10	6	月			課題研究支援③	古澤・楠本
	5	水	原の辻遺跡特論	川道・楠本		
	12	水	原の辻発掘体験①	古澤・楠本		
11	17	月			課題研究支援④	古澤・楠本
	19	水	原の辻発掘体験②	古澤・楠本		
	26	水	原の辻発掘体験③	古澤・楠本		
12	8	月			課題研究支援⑤	古澤・楠本
	14	日			課題研究発表会 ※1・2年も	(壱岐高)
1	28	水	壱岐の古墳	古澤・楠本		

2 体験入学等に関するこ

月	日	曜	行事名	担当者	行事内容
4	7	月	第1回連絡協議会	所長・川道・町田・楠本	自己紹介、新年度のコース運営等の協議・調整
8	30	土	第1回コース体験入学	所長・楠本	一文国博物館・埋文センター案内
11	2	日	第2回コース体験入学	所長・楠本	一文国博物館・埋文センター案内
	23	月	担当職員事前打ち合わせ	楠本	第2回協議会前の事前打ち合わせ
2	27	金	コース3年生表彰訪問	所長・川道・町田・片多・古澤・楠本	所長・授業に関わった職員との懇談会
3	4	水	第2回連絡協議会	所長・川道・楠本	年度末反省及び次年度計画の協議・調整

歴史学専攻の生徒がいなかったため専門の授業は実施しなかった。授業形態は、一般的な講義形式のものから原の辻遺跡の発掘体験、課題研究の支援など多様な内容となっている。また、体験入学においては、参加した保護者や中学生に対してセンターが提供した授業の様子を紹介した。



原の辻遺跡の発掘実習



課題研究発表会

<学校教育支援「埋文 MAIBUN 学びのサポート」>

○経緯…これまで本センターが取り組んできた学校教育への支援内容を、平成26年度に「埋文MAIBUN学びのサポート」としてわかりやすく体系化し、小中高特別支援学校等へ広く周知した。

○目的

- ・児童生徒の考古学・歴史学等への興味関心を高めるとともに、幅広い知識や技能の習得をサポートするため。
- ・東アジア考古学研究の成果や、県内の埋蔵文化財の発掘調査・研究、出土品の保存処理と収蔵保管など本センターが取り組んでいる事業を児童生徒に分かりやすく解説するため。

○内容

- ・学校における取組としては、遺物キット（「考古学BOX」）の貸し出し、出前授業、講演等の実施。
- ・本センターにおける取組としては、センターの専門機器や博物館を活用した学習、職場体験学習、P T A・職員研修会での利用等の実施。
- ・その他、原の辻遺跡の発掘体験学習、文化部活動への支援等の実施。

○実績…平成26年度は8件207名に関して対応した。

月	日	曜	学校名	人数	内容
7	23	水	長崎県立佐世保北中学校1年	119	一社国博物館と本センターの見学
9	16	火	長崎県立大学生(ながさき“F”プロジェクト)	5	一社国博物館と本センターの見学
	8	水	壱岐市立那ノ浦中学校3年	2	職場体験学習
10	17	金	長崎大学教育学部学生	3	一社国博物館と本センターの見学
	24	金	長崎県立虹の原特別支援学校高等部 壱岐分教室1・2年	15	一社国博物館と本センターの見学
11	6	木	壱岐市内教頭会	23	一社国博物館と本センターの見学
	25	火	長崎県立壱岐商業高等学校職員	28	一社国博物館と本センターの見学
12	13	金	壱岐市立田河小学校6年	12	一社国博物館と本センターの見学



職場体験学習



本センターでの授業

④東アジア考古学研究事業

本センターでは原の辻遺跡の調査研究をベースに、中国大陆や朝鮮半島との交流に焦点をあてた考古学研究を行っている。毎年度国内外の研究者を招聘したシンポジウムの開催などにより、研究成果の情報発信を行っている。

＜東アジア国際シンポジウム「支石墓の謎—墓地にみる日韓交流－」の開催＞

- 主 催 長崎県埋蔵文化財センター
- 共 催 壱岐市教育委員会・壱岐市立一支国博物館
- 後 援 壱岐市、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加教育委員会、朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社西部本社、壱岐日々新聞社、壱岐新聞社、壱岐新報社、NHK長崎放送局、KTNテレビ長崎、NCC長崎放送、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、壱岐ビジョン
- 日 時 平成 26 年 9 月 27 日（土）13:00～16:30
- 場 所 壱岐市立一支国博物館多目的ホール
- 参加者 203 名
- 内 容

長崎県埋蔵文化財センター所長挨拶

第Ⅰ部 支石墓にみる日韓交流 埼玉大学教養学部准教授 中村 大介

第Ⅱ部 長崎県と韓国の支石墓

・長崎県の支石墓 長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所 安楽 勉

・韓国の支石墓 韓国・慶南发展研究院歴史文化センター調査研究室長 尹 吴弼

（通訳）長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室 古澤 義久

第Ⅲ部 パネルディスカッション（韓・日発表者による）

壱岐市立一支国博物館長挨拶



中村 大介先生



伊 嘉彌先生



安楽 勲先生



パネルディスカッションの様子

<長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第5号の刊行>

本センター開所以来刊行を重ね、平成26年度は第5号をかぞえた。研究紀要是、本県の埋蔵文化財担当職員に研究成果の発表の場を提供し、職員の資質の向上を図るとともに、県民に埋蔵文化財の保護について周知することを目的としている。第5号では6本の論考が集まつた。

川道 寛・辻田 直人 「雲仙岳北麓土黒川流域の旧石器編年」

古澤 義久「壱岐市勝本町浦海遺跡出土磨製石斧について」

白石 溪汎「頭ヶ島白浜遺跡（平成7年度範囲確認調査）TP9（第9試掘坑）出土遺物」

片多 雅樹「判別図法を用いた黒曜石の産地推定～原産地データの蓄積～」

林 隆広「松浦党城郭遺構～塩津留氏の城跡～」

林 隆広「諫早市飯盛町所在の城跡について～東城跡・平古場城跡・岡城跡・团城跡の検討～」

2. 平成26年度 県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎市教育委員会

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2015	桜町遺跡－長崎市桜町5番25に おける個人住宅建設に伴う埋蔵 文化財発掘調査報告書－	桜町遺跡		
2015	深堀陣屋跡 －教会新築計画面に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告書－	深堀陣屋跡		

○島原市教育委員会

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2015	森岳城跡Ⅲ	森岳城跡	島原市文化財調査報告書	14
2015	森岳城跡Ⅳ	森岳城跡	島原市文化財調査報告書	15

○平戸市教育委員会

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2015	市内遺跡確認調査報告書XIV	里田原遺跡、海寺跡、籠手田城跡、横島	平戸市の文化財	70

○松浦市教育委員会

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2015	松浦市内遺跡確認調査（4）	姫神社遺跡、青島遺跡、栢ノ木遺跡、久保園遺跡、寺ノ尾A遺跡	松浦市文化財調査報告書	6

○壱岐市教育委員会

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2015	市内遺跡発掘調査事業に伴う 発掘調査	大米古墳、永田古墳群、勝本城 跡、カラカミ遺跡	壱岐市文化財調査報告書	25

3. 平成26年度 県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎県教育委員会

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2015	今福遺跡Ⅱ	今福遺跡	長崎県文化財調査報告書	211
2015	長崎県埋蔵文化財調査年報22 (平成25年度調査分)	小浜遺跡、鹿島海底遺跡、小手田 遺跡、原の辻遺跡、今福遺跡、平 野遺跡、小路口遺跡、尾和谷城 跡、黒丸遺跡、諫早市本明町18 -②、竹松遺跡	長崎県埋蔵文化財センター 調査報告書	13
2015	原の辻遺跡	原の辻遺跡	長崎県埋蔵文化財センター 調査報告書	14

長崎県内発行の報告書については、長崎県埋蔵文化財センターホームページのトップページ左側「図書情報検索」から、「書名」・「著者名」・「出版社名」・「キーワード」・「出版年」などの項目で検索できる。

また、長崎県教育委員会発行の埋蔵文化財調査報告書は電子化（PDF化）を進め、全国遺跡報告総覧（<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja>）にて公開している。

4. 事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

(1) 事業別発掘調査届出件数の推移

調査の目的・契機	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
a 道路	1	8 (6)	4 (3)	12 (8)
b 鉄道		5 (2)	13 (8)	15 (10)
c 空港				
d 河川		1 (1)	3	2
e 港湾				
f ダム				
g 学校建設	2 (1)		1 (1)	1 (1)
h 住宅	12 (11)	9 (7)	11 (9)	5 (4)
i 個人住宅	5 (5)	10 (9)	9 (9)	19 (19)
j 工場	1 (1)	1		1 (1)
k 店舗		1 (1)	7 (7)	3 (1)
l 個人住宅兼工場または店舗			1 (1)	2 (2)
m その他の建物	15 (12)	11 (10)	17 (12)	10 (10)
n 宅地造成	8 (7)	7 (6)	10 (10)	10 (10)
o 土地区画整理				
p 公園造成		1	1 (1)	1
q ゴルフ場	1			
r 観光開発				1
s ガス・電気・水道等		2 (2)	4 (3)	
t 農業基盤整備事業	5 (2)		6 (3)	15 (10)
u その他の農業関係事業	1 (1)			
v 土砂採取	1 (1)	1 (1)		3 (1)
w その他の開発	12 (10)	11 (8)	12 (12)	13 (13)
x 自然崩壊	2 (1)	1		
y 保存目的の範囲内容確認調査	9 (3)	13 (1)	11 (1)	10 (10)
z 学術調査	1	1	1	1 (1)
発掘調査届出件数合計	76	83	111	124

※()内数字は届出件数のうち「試掘・範囲確認調査」の報告数

(2) 県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移 ※()は嘱託職員で外数

区分	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
県	13(19)	15(23)	14(22)	18(32)	17(30)
市町	39(15)	39(14)	36(14)	38(14)	40(11)
総計	86	91	86	102	98

5. 平成26年度における発掘調査の履歴

調査番号	地名	調査名	調査開始日	調査終了日	調査原因	証号	調査種別	調査面積(m ²)	調査主体	調査所在地	届出通知
通年度											
	複数層道路	2013/6/2	2015/3/25	河川	d その他開発(太陽光発電事業)	w 納縫	1,795.0	南島原市	南島原市	09条	
	筑前田道路	2014/4/8	2014/4/11	その他開発(太陽光発電事業)	w 納縫	13.4	佐世保市	佐世保市	様式5号		
	日向山A道路	2014/4/9	2014/4/9	その他開発(太陽光発電事業)	w 試掘	2.8	佐世保市	佐世保市	様式5号		
	東久道路	2014/4/9	2014/10/2	宅地造成	n 調査・測量	1,023.0	大村市	大村市	様式5号		
	竹松道路	2014/4/13	2014/6/30	店舗(コスモス薬品)	s 本調査	1,600.0	大村市	大村市	09条		
	瀬戸道路	2014/4/17	2014/4/20	個人住宅	i 納縫	4.0	諫早市	諫早市	様式5号		
	石原道路④地点	2014/4/24	2014/6/30	商業基盤整備事業	t 本調査	387.5	壱岐市	壱岐市	09条		
	第六道路	2014/5/1	2014/5/2	その他建物(公民政)	m 納縫	6.0	大村市	大村市	様式5号		
	佐久1号橋	2014/5/3	2014/7/2	個人住宅	i 納縫	60.0	壱岐市	壱岐市	09条		
	奥久道路	2014/5/7	2014/5/8	その他開発(太陽光発電設置)	w 納縫	8.0	大村市	大村市	様式5号		
	第六道路	2014/5/7	2014/5/16	その他開発(資材貯場)	w 紳縫	24.0	大村市	大村市	様式5号		
	里見原道路	2014/5/7	2014/5/19	その他(建物)〔診療所〕	i 紳縫	35.0	芦辺市	芦辺市	様式5号		
	東久度道路	2014/5/8	2014/5/22	道路	a 紳縫	40.0	南島原市	南島原市	09条		
	新江口道路(接続地)	2014/5/9	2014/5/9	住宅	h 試掘	4.7	佐世保市	佐世保市	様式5号		
	三城城下路	2014/5/13	2014/5/14	個人住宅	i 紳縫	4.0	大村市	大村市	様式5号		
201401	DID 大久道路	2014/5/13	2014/6/28	鉄道	b 調査・測量	149.0	新創価事業所	大村市	様式5号		
	十船平道路	2014/5/14	2014/5/30	個人住宅	i 紳縫	4.0	諫早市	諫早市	様式5号		
	鬼石城跡	2014/5/19	2014/5/20	保存目的	y 紳縫	4.0	壱岐市	壱岐市	09条		
	佐世保城守所跡跡	2014/5/21	2014/5/23	保存目的	y 紳縫	15.0	佐世保市	佐世保市	様式5号		
	佐世保城守所跡跡	2014/5/21	2014/5/23	保存目的	y 紳縫	15.0	佐世保市	佐世保市	09条		
	森吉城跡	2014/5/24	2014/7/11	その他(建物)〔新規開拓事業者による新設工事〕	r 本調査	225.0	島原市(市町村財産課担当課)	島原市	02条		
201403	TAK 竹松道路(幸園基地①)	2014/5/28	2014/10/20	鉄道	b 本調査	6,320.0	新創価事業所	大村市	09条		
	瀬戸道路	2014/5/28	2014/12/12	商業基盤整備事業	t 本調査	2,000.0	壱岐市	壱岐市	09条		
	下瀬山道路	2014/5/28	2014/12/12	商業基盤整備事業	t 本調査	2,500.0	壱岐市	壱岐市	09条		
201405	TAK 竹松道路(幸園基地②)	2014/5/28	2015/2/7	鉄道	b 本調査	9,487.0	新創価事業所	大村市	09条		
	竹松道路(幸園基地③)	2014/5/28	2015/2/10	道路	b 本調査	7,720.0	新創価事業所	大村市	09条		
201404	TAK 竹松道路(幸園基地④)	2014/5/30	2015/7/10	道路	b 本調査	7,720.0	新創価事業所	大村市	09条		
201402	TOM 萩の原(常葉)道路	2014/6/2	2014/6/6	その他(他の開発:自動車教習所の新設工事)	w 調査・測量	24.0	黒島セレスター	大村市	09条		
	萩の原道路	2014/6/2	2014/7/1	住宅	i 紳縫	135.0	大村市	大村市	様式5号		
	黒島道路	2014/6/10	2014/6/20	その他(開発:駐車場建設)	w 紳縫	7,045.0	大村市	大村市	様式5号		
	北島和闇園無線跡	2014/6/10	2015/3/21	公園造成	p 本調査	410.0	長崎市	長崎市	09条		
	前島道路	2014/6/16	2014/10/17	住宅	h 本調査	454.0	佐世保市	佐世保市	09条		
	種子島北汎路	2014/6/20	2014/9/28	保存目的	y 紳縫	6.0	長崎市	長崎市	09条		
	大垣原道路	2014/7/1	2014/7/4	道路	a 試掘	8.0	南島原市	南島原市	様式5号		
201408	TAK 竹松道路(都市計画道路)	2014/7/1	2015/1/14	道路	a 本調査	2,930.0	新創価事業所	大村市	09条		
201407	TAK 竹松道路(幸園基地⑤)	2014/7/1	2015/3/8	鉄道	b 本調査	6,876.0	新創価事業所	大村市	09条		
201406	TAK 竹松道路(幸園基地⑥)	2014/7/3	2015/2/9	鉄道	b 本調査	4,920.0	新創価事業所	大村市	09条		
201409	IMA 今井城跡	2014/7/7	2014/7/29	鉄道	b 試掘	34.0	新創価事業所	大村市	09条		
201410	OIRO (原)小路口道路	2014/7/7	2014/6/29	鉄道	b 試掘	160.0	新創価事業所	大村市	09条		
201411	SJK 三城城下路	2014/7/7	2014/8/29	鉄道	b 紳縫	80.0	新創価事業所	大村市	09条		
	黒島道路	2014/7/8	2014/7/17	個人住宅	i 紳縫	8.0	大村市	大村市	様式5号		
	大村道路→石走道路	2014/7/14	2014/8/8	その他(開発:駐車場建設)	w 紳縫	40.0	大村市	大村市	様式5号		
	早崎庵屋道路	2014/7/15	2015/3/20	瓦電・電気・水道	a 本調査	245.1	佐世保市	佐世保市	09条		
	三城城下路	2014/7/16	2014/7/18	個人住宅	i 紳縫	8.0	大村市	大村市	様式5号		
	眞立寺參道跡	2014/7/22	2014/9/29	その他開発(学校のグラウンド新設工事)	w 紳縫	118.0	壱岐市	壱岐市	様式5号		
	種子島後原3号橋	2014/7/24	2014/8/14	その他(開発:太陽光発電施設建設)	w 紳縫	25.0	諫早市	諫早市	様式5号		
	上久計道路	2014/7/28	2014/7/28	個人住宅	i 試掘	4.5	大村市	大村市	様式5号		
	三城城下路	2014/7/28	2014/7/28	個人住宅	i 試掘	4.0	大村市	大村市	様式5号		
	力方山道路	2014/7/28	2014/12/19	保存目的	y 紳縫	200.0	壱岐市	壱岐市	09条		
	裏久道路	2014/8/4	2014/9/7	その他建物(病院)	m 紳縫	8.0	大村市	大村市	様式5号		
	笠の原道路	2014/8/4	2014/8/7	工場	j 紳縫	120.0	大村市	大村市	様式5号		
	舟内道路	2014/8/6	2014/9/10	その他(開発:)	w 紳縫	36.0	平戸市	平戸市	様式5号		
	真正寺參道跡	2014/8/9	2014/8/9	個人住宅	i 調査・測量	3.2	壱岐市	壱岐市	様式5号		
	黒島道路	2014/8/11	2014/8/11	個人住宅	i 紳縫	8.0	大村市	大村市	様式5号		
201413	TKS 沖島海灘道路	2014/8/17	2014/9/26	保存目的	- 分布調査	10,000.0	黒島セレスター	松浦市	-		
201412	KDR 謙ヶ島白浜道路	2014/8/17	2014/9/22	その他(開発:電線地化中作業)	w 本調査	7.0	#上久計(津居川支流)	島上五島町	09条		
	計量道路	2014/8/18	2014/6/29	その他(開発:保育施設建設)	w 紳縫	4.0	諫早市	諫早市	様式5号		
	菅寺寺跡	2014/8/18	2014/10/23	商業基盤整備事業	t 紳縫	12.0	南島原市	南島原市	様式5号		
	石原道路	2014/8/18	2014/10/23	商業基盤整備事業	t 試掘	140.0	南島原市	南島原市	様式5号		
	東久度道路	2014/8/18	2014/10/23	商業基盤整備事業	t 試掘	140.0	南島原市	南島原市	様式5号		
	東宝原道路	2014/8/18	2014/10/23	商業基盤整備事業	t 試掘	140.0	南島原市	南島原市	様式5号		

調査書号	地名	道路名	調査開始日	調査終了日	調査原因	証号	調査種別	調査者番号(証)	調査主体	道路所在地	届出通知
	高崎市保道跡(高城山高田学校付近)	2014/8/18	2014/11/27	保存目的	y 試験	98.0	長崎市	長崎市	99番		
	調査ノ上道路	2014/8/21	2014/11/28	農業基盤整備事業	t 本調査	1805.0	高島原市	高島原市	99番		
	早瀬戸戸山道路	2014/8/25	2014/9/28	住宅	h 納縫	14.5	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	古口道路(佐野町)	2014/8/25	2014/11/26	農業基盤整備事業	t 試験	25.0	南島原市	南島原市	様式番号		
	富の原道路	2014/8/26	2014/12/28	店舗(ナフコ)	x 本調査	2482.0	大村市	大村市	99番		
	二松道路	2014/9/27	2014/9/18	宅地造成	n 納縫	8.0	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	多ヶ島原道路	2014/9/1	2014/12/31	その他建物(太陽光発電施設)	w 試験・前述	44.0	大村市	大村市	様式番号		
	諫松道路	2014/9/9	2014/10/24	農業基盤整備事業	t 本調査	300.0	雲仙市	雲仙市	99番		
201414 MJU	妙見谷	2014/9/10	2014/9/24	鉄道	b 試験	8.0	鍋島新幹線事務所	大村市	様式番号		
201415 DTB	大平道路	2014/9/10	2014/9/24	鉄道	b 試験	12.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
	真正今条重畠	2014/9/23	2014/9/23	個人住宅	i 納縫	3.0	雲仙市	雲仙市	様式番号		
	鍋島海道遺跡	2014/9/28	2014/10/7	学術調査	x 試験・前述	1000.0	筑摩大橋	筑摩大橋	92番		
	佐野寺路	2014/10/7	2014/10/10	個人住宅	i 納縫	22.3	大村市	大村市	様式番号		
201423 HIRN	原の山道路	2014/10/14	2015/1/8	保存目的	y 納縫	500.0	荒尾支センター	荒尾市	99番		
	古柳城跡	2014/10/15	2014/10/20	その他建物(共用便宅)	m 納縫	22.0	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	早瀬戸戸山道路(隣接地)	2014/10/21	2014/10/21	個人住宅・工場または店舗	i 試験	5.8	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	佐野戸山道路(隣接地)	2014/10/23	2014/10/23	道路	a 試験	2.4	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	中里道路(隣接地)	2014/10/28	2014/10/31	個人住宅	i 試験	10.0	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	種子島開拓指揮官施設跡	2014/11/4	2015/2/18	保存目的	y 納縫	31.0	芦津町	芦津町	99番		
	針崎道路(佐世保市)	2014/11/5	2014/11/5	その他建物(門営所・廃元工事)	m 試験	20.0	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	金石城跡	2014/11/5	2015/2/21	保存目的	y 納縫	126.0	对馬市	对馬市	99番		
	山鼻支垂路	2014/11/7	2014/11/12	店舗	s 納縫	12.0	雲仙市	雲仙市	様式番号		
	対馬川道路	2014/11/10	2014/11/11	宅地造成	n 紳縫	20.0	佐世保市	佐世保市	様式番号		
201420 NGC	野口道路	2014/11/10	2014/11/20	農業基盤整備事業	t 紳縫	24.0	川棚町(荒尾支)又は川棚町	川棚町	99番		
201421 NGM	野口前道路	2014/11/10	2014/11/20	農業基盤整備事業	t 紳縫	53.0	川棚町(荒尾支)又は川棚町	川棚町	99番		
201416 TAK	竹久道路	2014/11/11	2015/1/8	鉄道	b 試験・前述	110.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
201417 TAK	竹久道路(都木付箇道路)	2014/11/15	2015/1/3	道路	a 試験・前述	111.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
201418 NBT	西の小道路	2014/11/10	2015/1/8	鉄道	b 試験	16.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
	大友古墳	2014/11/10	2015/1/20	保存目的	y 紳縫	55.0	香椎町	香椎町	99番		
	羅豆城跡	2014/11/11	2014/11/11	個人住宅	i 紳縫	8.0	芦津町	芦津町	様式番号		
	行是道路	2014/11/21	2015/1/29	河川	d 本調査	27.0	大村市	大村市	99番		
201422 KOT	小平道路	2014/11/26	2015/2/27	道路	a 本調査	150.0	荒尾支センター	芦津町	99番		
	長崎城跡	2014/11/26	2014/11/27	宅地造成	n 紳縫	18.0	佐世保市	佐世保市	様式番号		
201419 TAK	竹久道路(市道折坂)	2014/11/28	2014/12/25	道路	a 本調査	106.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
	船木道路	2014/12/1	2014/12/12	保存目的	y 紳縫	36.0	松浦市	松浦市	99番		
	白石川道路	2014/12/2	2014/12/3	その他建物(某耕作者用住宅)	m 紳縫	8.0	東彼杵町	東彼杵町	様式番号		
	平野道路	2014/12/9	2014/12/10	個人住宅	i 試験	8.0	大村市	大村市	様式番号		
	上野道路	2014/12/15	2014/12/24	土砂採取	y 紳縫	16.0	南島原市	南島原市	様式番号		
	タブノノ原道路	2014/12/18	2014/12/19	その他の建物(事務所・倉庫)	m 試験	16.0	大村市	大村市	様式番号		
	久保園道路	2014/12/18	2014/12/19	その他の建物(拂拂電線無線基地局)	w 紳縫	2.3	松浦市	松浦市	様式番号		
	種口道路	2014/12/18	2014/12/22	その他建物(消防隊所)	m 紳縫	6.0	雲仙市	雲仙市	様式番号		
	竹久道路	2014/12/24	2014/12/25	宅地造成	n 紳縫	20.0	佐世保市	佐世保市	様式番号		
	富の原道路	2015/1/7	2015/1/8	宅地造成	n 紳縫	58.5	大村市	大村市	様式番号		
	三城城下	2015/1/7	2015/1/8	個人住宅	i 試験	4.5	大村市	大村市	様式番号		
	山鼻道路	2015/1/7	2015/1/8	個人住宅	i 紳縫	2.0	雲仙市	雲仙市	様式番号		
	三城城下跡	2015/1/13	2015/1/16	個人住宅	i 紳縫・前述	45.0	大村市	大村市	様式番号		
	城ノ尾原道路	2015/1/14	2015/1/15	その他建物(介護施設)	m 紳縫	6.0	雲仙市	雲仙市	様式番号		
201424 KHM	津井黒丸奈良里	2015/1/28	2015/2/20	学術建設	a 紳縫	64.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
201425 HIRN	平野道路	2015/1/28	2015/2/20	道路	a 本調査	16.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
201426 TAK	竹久道路	2015/1/28	2015/2/20	道路	a 本調査	16.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
201427 TSJ	立石道路	2015/1/28	2015/2/20	道路	a 本調査	24.0	鍋島新幹線事務所	大村市	99番		
	原八道路	2015/2/9	2015/2/25	宅地造成	n 紳縫	211.7	大村市	大村市	様式番号		
201428 HMM	平ノ原城跡	2015/2/9	2015/3/8	鉄道	b 試験	36.0	鍋島新幹線事務所	大村市	様式番号		
201429 KIT	岸野支垂路	2015/2/9	2015/3/6	鉄道	b 試験	36.0	鍋島新幹線事務所	大村市	様式番号		
201430 TAK	山鼻支垂路	2015/2/12	2015/3/4	その他建物(横行)	m 紳縫	8.0	雲仙市	雲仙市	様式番号		
	三城城下	2015/3/2	2015/3/4	個人住宅	n 試験	7.0	大村市	大村市	様式番号		
201430 SHT	下付村道路	2015/3/2	2015/3/6	道路	a 紳縫	16.0	荒尾支センター	佐世保市	99番		
	東大渡道路	2015/3/3	2015/3/12	道路	a 本調査	340.0	南島原市	南島原市	99番		
	奥大渡道路	2015/3/6	2015/3/23	宅地造成	n 紳縫	135.0	大村市	大村市	様式番号		
	奥大渡道路	2015/3/9	2015/3/11	住宅	b 試験	12.0	大村市	大村市	様式番号		
	種口道路	2015/3/11	2015/3/12	その他建物	m 紳縫	2.0	雲仙市	雲仙市	様式番号		
	上小島口古墳	2015/3/18	2015/3/16	個人住宅	n 試験	20.0	大村市	大村市	様式番号		

6. 平成26年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

(1) 富の原（常盤）遺跡（とみのはら（ときわ）いせき）【遺跡調査番号：201402】

所在 地 大村市富の原1-1000

調査 主体 長崎県教育委員会

調査 担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査 原因 陸上自衛隊竹松駐屯地内の自動車教習所新設

調査 面積 2.4 m²

調査 期間 平成26年6月2日～6月6日

調査 区分 試掘・範囲確認調査

報 告 書 刊行予定なし

處 置 調査後工事

立 地

当該遺跡は、大村湾東岸の標高4m～8mの大村扇状地にあり、遺跡範囲は約450,000 m²に及ぶ。今調査地はその南端に位置する。

調 査

調査は自衛隊竹松駐屯地自動車教習場を対象とし、2×2 mの試掘坑を6箇所設定して東側から TP1～TP6とした。教習所東側端部に設定したTP1～TP3は、砂利舗装の転圧と円柱形コンクリートを埋めるために掘削がなされており、包含層は認められなかった。遺物はTP1で黒曜石剝片1点と土師器1点が表土から出土している。教習所西側のTP4～TP6は、周知の遺跡範囲から若干外れた場所に設定して遺跡範囲の精査を行なったが、近年の搅乱を受けており遺物包含層及び構造は認められなかった。

ま と め

今回調査を実施した自衛隊竹松駐屯地内の自動車教習場にあたる部分は、戦前に飛行場の滑走路が建設されていた場所で、周囲の民有地グランドレベルから-1m掘削を受けている。過去に大村市教育委員会が行った富の原遺跡の調査では、表土下30cm～40cmで遺物包含層を確認していることから、遺物包含層は戦前の滑走路建設によって削平を受けたと考えられる。



富の原（常盤）遺跡位置図〔武瑠路山〕(S=1/25,000)



TP1 調査風景

【調査担当：町田・前田】(記：前田)

（2）頭ヶ島白浜遺跡（かしらがじましらはまいせき）【遺跡調査番号：201412】

所在地 南松浦郡新上五島町友住郷字白浜

調査主体 新上五島町教育委員会

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 頭ヶ島白浜地区無電柱化事業

調査面積 7 m²

調査期間 平成 26 年 8 月 17 日～8 月 22 日

調査区分 本調査

報告書 刊行なし

処置 調査後工事

立地

頭ヶ島白浜遺跡は、1984 年（昭和 59 年）に縄文時代・古墳時代の遺物包藏地および墳墓として周知された遺跡である。遺跡は頭ヶ島北側の海岸、海拔 0～20m の砂丘上に立地する。

調査

昭和 42 年には砂取りの際に人骨 20 体が発見され、平成 3 年には町営アワビ養殖場建設事業に伴い範囲確認調査と本調査がなされている。この時の調査では、縄文時代前期前半から後期前半の遺物、及び近世末期の人骨 45 体に加え、韓国隆起文系土器が検出されている。

平成 26 年度には、頭ヶ島白浜地区無電柱化事業が計画されており、総長おおよそ 400m、幅おおよそ 1.5m の掘削が予定されている。新上五島町教育委員会では、平成 7 年度の調査、及びその後の新上五島教育委員会の工事立会の記録を参照して、長崎県埋蔵文化財センターとの協議の上、このうち里道から防災無線にかけての工事箇所（幅 1m、長さ 7m）について本調査を行うこととした。

調査の結果、最大厚 20cm 程度の表土・搅乱層（1 層～7 層）の下に、3 つの砂層（8 層～10 層）が確認された。掘り下げには移植ゴテやねじり鎌等の手掘りの道具を使用し、慎重に掘り下げを行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

まとめ

平成 3 年の試掘調査において包含層を確認した地点から今回の調査地点までは、直線距離でわずかに 6m 程度と近い。しかしながら、上記のように予想された遺物包含層の広がりは確認されなかった。

【調査担当：白石・後濱】（記：白石）



頭ヶ島白浜遺跡位置図（頭ヶ島）(S=1/25,000)



調査区完掘状況

(3) 鷹島海底遺跡（たかしまかいいていいせき）【遺跡調査番号：201413】

所在地 松浦市鷹島町三里免床浪港東側

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 保存目的

調査面積 10,000 m²

調査期間 平成26年8月17日～8月26日

調査区分 分布調査

報告書 平成29年度刊行予定

処置 現地保存

立地

鷹島海底遺跡は、伊万里湾に浮かぶ松浦市鷹島南岸延長7.5km、汀線から沖合200mの約150万m²の範囲に広がる海底遺跡である。

調査

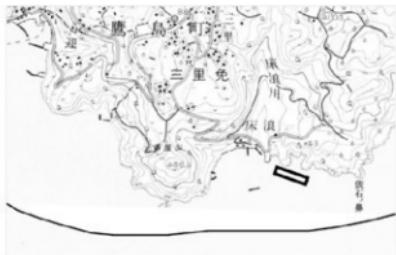
本遺跡の調査は、昭和55年から30年以上にわたり実施されており、蒙古襲来関係の遺物がこれまでに約4,000点発見されており、弘安の役（弘安4・1281年）に際し、元軍の軍船が沈没した場所として世界史的に評価されている。平成23年には、琉球大学と松浦市の調査によって元軍の軍船が確認され、38万4千平方メートルの範囲が鷹島神崎遺跡として平成24年3月27日に海底遺跡としては日本初の国史跡として指定されている。長崎県教育委員会では、国指定史跡範囲の追加指定を目的として、平成25年度から5ヵ年計画で遺物分布調査を行っている。

平成26年度は、平成25年度調査区の東側に200m×50m（1万m²）の範囲で調査区を設定し遺物分布状況を調査した。考古学の知識を有し、かつ潜水士の資格を持つものを潜水調査員とした。潜水調査員3～5人程度を1チームとし、午前2チーム、午後2チームが調査区内を目視で精査していく。元寇関連と思われる遺物を発見した場合はピンボールを刺して目印とし、複数の潜水調査員の目によって確認作業を行い、元寇関連遺物と判断された場合は写真、ビデオにて形状等の記録を行い、また遺物から上げたブイを海面上でGPSにより位置を記録した。

まとめ

今年度の調査では、磚等の遺物が2箇所にまとまって認められ、合計123点の遺物を確認した。遺物はGPSおよび写真、動画にて記録保存した後、取り上げずにそのまま海底に保存している。

【調査担当：町田・片多】（記：片多）



鷹島海底遺跡位置図〔志佐〕 (S=1/25,000)



磚の集中箇所



四耳甃

(4) 原の辻遺跡（はるのつじいせき）【遺跡調査番号：201423】

所在地 壱岐市石田町石田西触 283

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 原の辻遺跡調査研究事業

調査面積 500 m²

調査期間 平成 26 年 10 月 14 日～平成 27 年 1 月 8 日

調査区分 範囲確認調査

報告書 平成 27 年 3 月刊行済み

処置 調査後埋戻し

立地

調査対象地は小川川の北部に位置する標高約 14m の小高い丘陵で、以前は饅頭畑として利用されていた。本地區では 1977 年度に長崎県教育委員会により範囲確認調査、2003 年度に石田町教育委員会により範囲確認調査が実施されている。



原の辻遺跡平成 26 年度調査区位置図

調査

南北 25m × 東西 20m の 500 m²について調査を実施した。調査区は南北 5m × 東西 5m のグリッドにより 20 箇所に分割して設定した。遺物包含層までの深度が浅いものと推定されたため、人力により表土を除去した後、人力で掘削した。ナイフ形石器文化期の包含層が北西部を除いて検出された。造構としてはナイフ形石器文化期の土坑 2 基を確認した。

旧石器時代以前の無遺物層を掘り込む皿形土坑 2 基を検出した。1 号土坑は、平面形態はほぼ楕円形に近く、南北長 52cm、残存東西長 17cm で、深さは中央の最深部で 14.5cm である。土坑内堆積は 1 層で遺物は出土しなかった。2 号土坑は、平面形態はほぼ円形に近く南北長 64cm、東西長 69cm である。深さは中央の最深部で 13cm である。土坑内堆積は 1 層で半截した範囲では遺物は出土しなかった。

旧石器時代遺物包含層からは黒曜石製の狸谷型ナイフ形石器、原の辻型台形石器、スクレイパー、使用痕のある剝片、石核、安山岩製のスクレイパー、剝片などが出土した。このほかに野岳・休場型の細石刃核、繩文時代後期の鋸歯縁石鏃が出土したが、後世の混在とみられる。旧石器時代の黒曜石の螢光 X 線分析 (Rb・Sr 分率) により大略 8 箇所の原産地から搬入されていたことがわかり、松浦市牟田産黒曜石を主体としながらも、壹岐印通寺産黒曜石も利用されていたことが判明した。



2 号土坑

まとめ

今次の調査では後期旧石器時代の良好な資料を得ることができ、原産地についての分析も進展した。一方弥生時代の遺物は僅少で、弥生時代にはそれほど利用されていなかったことも明らかとなった。

【調査担当：川道・古澤・楠本】(記：古澤)

（5）野口遺跡（のぐらいせき）【遺跡調査番号：201420】

所在地 東彼杵郡川棚町中組郷横尾平

調査主体 川棚町教育委員会

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 農道基盤整備事業

調査面積 24 m²

調査期間 平成26年11月10日～11月20日

調査区分 範囲確認調査

報告書 刊行予定なし

処置 調査後工事

立地

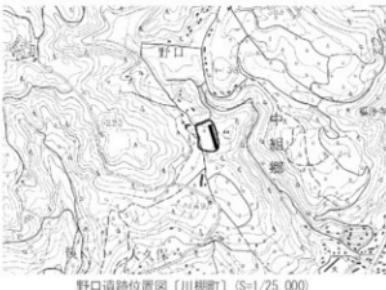
当該遺跡は、台地の標高150m～130mに位置する。

調査

調査は2×2mの試掘坑を6箇所設定し、南側からTP1～TP6とした。TP1・TP2では、表土から黒曜石剥片や土師器片、陶磁器片が出土するが、遺物包含層は認められなかった。TP3では約2.2m掘り下げを行なったが、旧地形が窪地であったためか造成土を除去できなかった。TP4～TP6においても遺物包含層は認められなかった。

まとめ

遺跡周辺は畑地全体を耕地整理しており、この時に遺物包含層は削平、盛土を受けたと考えられる。



野口遺跡位置図〔川棚町〕(S=1/25,000)



調査風景

【調査担当：町田・前田】(記：前田)

(6) 野口前遺跡（のぐちまえいせき）【遺跡調査番号：201421】

所在地 東彼杵郡川棚町中組郷野口前 454

調査主体 川棚町教育委員会

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 農道基盤整備事業

調査面積 53 m²

調査期間 平成 26 年 11 月 10 日～11 月 20 日

調査区分 範囲確認調査

報告書 刊行予定なし

処置 農道整備事業の計画変更

立地

当該遺跡は、台地の標高 140m～130m にあり、調査地点は遺跡西側端部に位置する。

調査

調査は板碑を含む集石部分 7×7m を TP7 とし、その北側の 2×2m の試掘坑を TP8 とした。TP7 では、円形集石内外の広範囲に 10～20cm 程の角礫、近世～近現代の陶磁器片・瓦片・陶器片が散布していた。円形集石の礫の大きさは平均 1m 前後、最大 1.7m に及ぶ。板碑は自然石を用いており、立石を支える根石が前方南側と後方西側に埋め込まれていた。板碑前面には供え物を置くための長方形の自然石を配置していた。TP8 では、茶褐色土（1 層）約 20cm 以下は明褐色土（2 層）の地山となっており、遺物包含層は確認できなかった。

まとめ

円形集石と板碑の関係については、板碑の配置状況及び遺物出土状況から一的な構造として考えられる。自然石を用いた板碑は 16 世紀から 17 世紀にかけて隆盛すること、また 18 世紀後半以降から 19 世紀の近世陶磁器が出土していることから、板碑及び集石構造についての時期は、安土桃山時代から江戸時代の間に造られたと想定される。



野口前遺跡位置図 [川棚町] (S=1/25,000)



板碑検出状況



円形集石検出状況

【調査担当：町田・前田】(記：前田)

(7) 小手田遺跡（こてだいせき）【遺跡調査番号：201422】

所在地 平戸市田平町小手田免

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 主要地方道平戸田平線工事

調査面積 1,508 m²

調査期間 平成 26 年 11 月 25 日～平成 27 年 2 月 27 日

調査区分 本調査

報告書 平成 28 年 3 月刊行

処置 調査後工事

立地

小手田遺跡は、南から北に向かって緩やかに下る、北向きの斜面上に位置する。東西約 350m、南北約 280m、標高 20～30m の範囲が遺跡に指定されており、今回の調査地はそのほぼ中央を横断する工事予定地内である。



小手田遺跡位置図〔平戸〕(S=1/25,000)

調査

小手田遺跡は、縄文時代の遺物包含地として周知された遺跡である。これまで本調査がなされておらず、遺跡の内容については明らかにされていない。平成 26 年度より、主要地方道平戸田平線道路改良工事が計画されており、このうち約 300m が遺跡範囲を東西に横断する。このため範囲確認調査を行ったところ、工事予定区間の東西約 125m の範囲において遺物包含層を確認し、平成 26 年 11 月 25 日から平成 27 年 2 月 25 日にかけて本調査を行った。調査により、掘立柱建物 2 棟および谷状地形等を検出した。掘立柱建物は、梁行き 2 間×桁行き 3 間のものと、梁行き 2 間×桁行き 5 間と考えられるものの 2 棟である。平面プランについて 2 棟は重複しており 2 時期に分かれると、前後関係については不明である。またこのうち 1 棟より白磁口縁部の小片が出土している。現状では時期について明確ではないが、おおよそ中世と考えられる。谷状地形は、幅 10m 程度、深さ 1.2m 程度の馬蹄状の形状をなす。埋土は大きく 2 層に分けられ、下層には旧石器時代から古墳時代初頭と考えられる遺物が、上層には中世の遺物が検出された。上層には同質の埋土が、厚く堆積しているが、水流による流れ込みの痕跡は確認されず、人為的に一時に埋められたものと考えられる。貿易陶磁器の出土が多く見られたが、それらの年代から 13 世紀以降の埋め立てと考えられる。



谷状地形

まとめ

現在整理作業中であり、総括はそちらに記載する予定である。この地域の歴史、特に中世の歴史を復元するための情報を得ることができた。

【調査担当：白石・今西・後濱】(記：白石)

(8) 下羽付遺跡（しもはつきいせき）【遺跡調査番号：201430】

所在地 佐世保市世知原町矢櫃免字下羽付

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 道路改良工事

調査面積 16 m²

調査期間 平成27年3月2日～3月6日

調査区分 範囲確認調査

報告書 平成28年3月刊行

処置 本調査

立地

当該遺跡は、北側に佐々川、西側に鍋田川が流れる標高約200mの丘陵部中腹に位置する。

調査

調査箇所は、現県道西側の畑地に2×2mの調査坑4箇所を設定し、北側からTP1～TP4とした。TP1～TP3は、表土下に黄褐色の粘質土（2層）と暗黄色粘質土（3層）が堆積し、この2層と3層が縄文時代の遺物含有層である。TP1では2層から黒曜石剥片が6点、TP2の2層では、100点を越す黒曜石剥片とともに石鏃、石斧、石核が出土した。TP3の2層および3層からは黒曜石の剥片及び石核等が13点出土したが、TP4において遺物は出土せず、4層以下は茶褐色粘質土の地山となっており、遺物包含層が削平された後に、新たに客土が持ち込まれていることを確認した。

まとめ

TP1～TP3からは黒曜石剥片や碎片が出土し、特にTP2に多く集中している状況が認められた。このことから縄文時代における狩猟の為の石器製作の場の可能性が考えられる。



下羽付遺跡位置図〔江迎〕(S=1/25,000)



下羽付遺跡 出土遺物

【調査担当：町田・前田】(記：前田)

（9）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：201403】

所在地 大村市竹松町 676 番地 3 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線関連

調査面積 6,320 m²

調査期間 平成 26 年 5 月 28 日～10 月 20 日

調査区分 本調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

竹松遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代から中世の包蔵地として周知されている。遺跡は郡川によって形成された大村扇状地の北側扇端付近に位置する。調査地周辺の地形は南東から北西に緩やかに傾斜した平地地形を呈しており、標高は 14m 前後である。現在、周辺は宅地や田畠として利用される一方で、事業対象地については新幹線関連工事が進捗中である。



竹松遺跡位置図【武留路山】(S=1/25,000)

調査

本調査における検出遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期の堅穴住居跡 7 軒、土坑墓 8 基、古墳時代前期の溝跡 2 条、古墳の周溝部と思われる円形周溝 1 基、古代の掘立柱建物跡 2 棟、中世の掘立柱建物跡 1 棟、近世の建物跡、溝跡、時代不明の溝跡、土坑、ピットである。出土遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶器、近世陶器、石器、石製品、ガラス製品である。このうち須恵器の 1 点には『東』の墨書きが確認できる。検出遺構のうち、古墳の周溝部と思われる円形周溝は直径 15m の円形を呈し、周溝内からは布留式の範疇で考えられる土師器が出土した。また、古墳時代前期の溝跡 2 条からも古墳の周溝部と思われる円形周溝から出土したものと同時代の土師器片が出土した。この 2 条の溝跡は東西方向に平行に構築され、うち 1 本は東方向から南方向へほぼ 90 度に曲がり、区画溝として機能していた可能性がある。



古墳の周溝部と思われる円形周溝（南から）

まとめ

今回の調査では縄文時代から近現代までの幾度かの消長をもつた断続的な土地利用が確認できた。なかでも古墳時代前期においては、北から【古墳 → 坚穴住居城 → 区画溝内の城】との土地利用が想定され、竹松遺跡の集落景観復元や集落構造解明を行う上で重要な成果を得ることができた。

【調査担当：濱村・小川・竹本・東郷】(記：濱村)

(10) 竹松遺跡 (たけまついせき)【遺跡調査番号: 201404】

所在地 大村市竹松町 1201 番 1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開通

調査面積 7,720 m²

調査期間 平成 26 年 5 月 30 日～平成 27 年 2 月 10 日

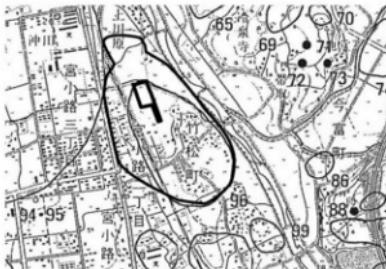
調査区分 本調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

竹松遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代から中世の包蔵地として周知されている。扇状地の北側端部、標高 10～15m に位置し南東から北西に向かう緩やかに傾斜する平地で、水田や畑として利用されていた。当遺跡の東に 2 級河川の郡川が流路を保っている。



竹松遺跡位置図(武留路山) (S=1/25,000)

調査

調査区は地割に合わせ昨年度の名称を引き継ぎ設定した。遺構は溝状遺構及び自然流路 11 条、カマド跡 2 基、掘立柱建物跡 2 棟、堅穴建物跡 7 軒、石棺墓 3 基、土坑 131 基、ピット 750 基、不明遺構 11 基検出した。調査区北部では、堅穴建物跡 2 軒と堅穴状遺構を 1 基検出し、遺構内遺物から縄文時代晩期と考えられる。昨年度継続の弥生時代掘立建物跡群では中央土坑と環状に並ぶ柱穴を検出した。柱穴の半数以上が切り合いをもっており建て替えた可能性が考えられる。石棺墓は、3 基検出した。うち 1 基は 24 年度に西側半分の調査を終え、本年度に東半分の調査を行った。特筆される遺物として金銅製耳環が出土している。周辺では中央部に支脚状の立石があるカマド跡、6 世紀後半の須恵器杯身が完形で出土しており古墳時代の堅穴建物跡が存在した可能性が高い。

まとめ

今回の調査では、河川の氾濫により削平を受けてはいるが、焼土面を残すカマド跡や 6 世紀後半の須恵器杯身の完形品が出土するなど、古墳時代の生活面、昨年度と同じように弥生時代の生活面の確認もできた。隣接する調査区でも同様の円形の堅穴建物跡が検出されていることから、同一の集落の広がりが考えられる。縄文時代の生活面では、縄文晩期の遺構や遺物が主として確認された。下部からは縄文早期の押型土器片が出土した。



縄文晩期 堅穴建物検出状況

【調査担当: 松元・川瀬・生田・松浪・山下】(記: 川瀬)

(11) 竹松遺跡 (たけまついせき)【遺跡調査番号: 201405】

所在地 長崎県大村市竹松町1101番ほか

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開通

調査面積 9,487 m²

調査期間 平成26年5月28日～平成27年2月27日

調査区分 本調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

竹松遺跡は、大村扇状地の北側端部で東を郡川が流れる標高10～15mに位置し、東に黄金山古墳、西に黒丸遺跡、南に富の原遺跡、北に好武城跡がある。調査地は当遺跡の北部、標高約10～12mに立地する。

調査

包含層は、中世～古代、古墳、弥生時代の3層を確認し、主な遺構は、ピットを約1,500基、土坑を46基、甕棺墓を6基、石棺墓を2基、竪穴建物跡を8棟、掘立柱建物跡を6棟、溝状遺構を12条検出し調査を行った。甕棺墓、石棺墓については小型のもので、全て小児用であると思われる。竪穴建物跡のうち、調査区北西から検出した2棟は弥生時代中期のものであり、北側に隣接する調査(調査番号:201407)でも同時代の建物跡が検出されている。溝状遺構のうち、1条は2012年度・2013年度に調査した中世区画溝の北側延長部(北西角)で、その1辺は100mで北西・南西両角の延長上は自然流路につながることが分かった。また、掘立柱建物のうち4棟は輪線が描いた、区画溝の内側に位置している。遺物は、縄文時代晚期～中世の土器・石器がコンテナ240箱出土した。中でも、区画溝の内側からは国産の土師器、貿易陶磁、石鍋などが多く出土した。

まとめ

今回の調査で、弥生時代中期の竪穴建物跡の検出、過年度から調査してきた区画溝の全容とその内側にある建物跡の位置関係を確認できたことは大きな成果である。しかし、過年度同様、14世紀後半からの生活の痕跡がないことからこの理由については今後検討する必要がある。



竹松遺跡位置図(武留路山) (S=1/25000)



区画溝完掘状況

【調査担当: 川畑・堀内・新井・江口・谷口】(記: 新井)

(12) 竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：201406】

所在地 大村市沖田町733番地1他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開通

調査面積 4,920 m²

調査期間 平成26年7月3日～平成27年2月9日

調査区分 本調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

本遺跡は大村市沖田町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約10～15mで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。調査地は、遺跡の北西端部に位置する。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

調査

調査は座標に合わせて20m四方の方眼を設定し、表土を重機で掘削した後、包含層を人力で掘削した。縄文時代の遺構の検出はなかったが、縄文時代晩期の土器、石器類、黒曜石剥片が出土した。

弥生時代については、小堀甕棺墓4基、堅穴住居跡3基、一箇所に土器と自然縄が集中する不明遺構を検出した。出土遺物より判断すると、いずれも弥生時代後期のものである。

古墳時代では方形の堅穴住居跡を12基、掘立柱建物跡1基、土坑を複数基検出した。堅穴住居跡には、北側に自然縄を組んで構築された竈を持つものがあり、そのうち2基より、廃絶時に高坏などの土器を伏せて置いた竈封じの様相が見られた。これらの堅穴住居跡は、出土した須恵器より、6世紀後半のものであると判断する。

古代については、後述する中世の面で少量の遺物が出土するのみであった。

中世のものは、掘立柱建物跡3棟（1棟は四面廂付）、掘立柱建物跡とそれを周回する方形の周溝状遺構、概ね東西に延びる水田畦畔を2条検出した。いずれも鍔付の石鍋片や貿易陶磁器類を伴っている。



遺構検出状況（空中撮影）

まとめ

今回の調査では、縄文時代以降中世まで継続的な土地利用の様相が確認できた。弥生時代・古墳時代においては集落、その後中世には水田としても利用されていた。過年度調査や近接調査区と併せ、遺跡の旧環境を明らかにする一助となる成果となった。

【調査担当：田島・松崎・相良・小松・深堀】（記：田島）

(13) 竹松遺跡 (たけまついせき)【遺跡調査番号: 201407】

所在地 大村市竹松町1093番1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開通

調査面積 6,876 m²

調査期間 平成26年7月1日～平成27年3月6日

調査区分 本調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約9～15mで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。

調査

調査対象地は竹松遺跡の北端にあり、標高は約

竹松遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

9～12mを測る。調査は座標に合わせて20m四方のグリッドを設定し、地形に応じて第1～4の調査区を設け、調査区ごとにトレンチを設定し土層確認を行った。掘削は、表土を重機で、それ以下の包含層は人力で行った。最終的には河川堆積によると思われる大礫を含む暗褐色砂疊層(5層)まで掘り下げた。

遺物は表土下約50cmの暗オリーブ褐色土(3層)から土師器、須恵器が出土し、その下のにぶい黄褐色砂質土(4層)からは弥生時代の遺物が出土した。遺構は3層より古代の掘立柱建物・古墳時代後期の堅穴住居、4層より弥生時代後期の堅穴住居・甕棺・石棺・遺物廃棄土坑等が検出された。

まとめ

1・2・4区では、1層から2層にかけては縄文時代から近世までの遺物が混在して出土し、1層は耕作土、2層は床土で過去の農業用の客土ではないかと考えられる。出土遺物・遺構から3層は古墳時代後期から古代にかけての包含層、4層は弥生時代後期の包含層であると考えられる。結果、3層に古代と古墳後期、4層に弥生時代後期の3つの生活面が確認できた。また、4層の最下部、5層の礫の直上からは縄文時代晩期の粗製、精製土器や扁平打製石斧などが多数出土した。

3区は2層下に5層の礫層となるが、1部礫層が窪んだ所には溜まった層(Ⅲ層)に遺物が集中する所があり、縄文から中世までの遺物が混在して出土するが、古墳時代のほぼ完形の須恵器の高壺などが出土している。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)



作業風景

【調査担当: 浦田・徳弘・加世田・渡邊】(記: 浦田)

(14) 竹松遺跡(たけまついせき)【遺跡調査番号: 201408】

所在地 大村市竹松町 1042 番 1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 都市計画道路「池田沖田線」建設

調査面積 2,900 m²

調査期間 平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 1 月 14 日

調査区分 本調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

竹松遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代から中世の包蔵地として周知されている。遺跡は郡川によって形成された大村扇状地の北側扇端付近に位置する。周辺の地形は南東から北西に緩やかに傾斜しており、標高は 10～15m を計る。周辺は、現在宅地や田畠として利用されている。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

調査

調査区の基本土層は表土、水田底土の下に縄文晩期から中世の包含層（3 層）、縄文早期から晩期の包含層（4 層）、縄文早期の遺物をわずかに含む黒褐～褐色土層（5 層）、砂礫混じり黒褐色土層（6 層）、砾層（7 層）となる。遺構は弥生時代後期の竪穴建物跡 2 軒、弥生時代後期以降の溝 1 条、中世末～近世の水田や畝状遺構といった生産関連遺構、ピット 253 基、土坑 19 基、自然流路を検出した。竪穴建物は平面プランが円形のものと方形のものが 1 軒ずつ確認され、特に円形の竪穴建物跡は北側に張出部を有し、埋土中からはガラス小玉約 182 点が出土した。調査区北端で検出した水田は水路や畦畔の芯材になると考えられる石列を伴うもので、さらに北側に広がるものと考えられる。

まとめ

今回の調査では、弥生時代後期を中心に縄文～近世までの遺構、遺物を検出した。調査区周辺が土地利用方法を変えながらも継続的に生活の場として利用されてきたことが確認できた。本調査区は昨年度、弥生時代後期の竪穴建物を検出した調査区に隣接しており、同一の集落と考えられる。円形の竪穴建物跡からは大量のガラス小玉が出土するなど特異な状況が確認でき、その性格が注目される。



竪穴建物(S001)床面検出状況

【調査担当: 山梨・中川】(記: 山梨)

(15) 竹松遺跡 (たけまついせき)【遺跡調査番号: 201417】

所在地 大村市沖田町133 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 都市計画道路「池田沖田線」建設

調査面積 113 m²

調査期間 平成26年11月10日～平成27年1月8日

調査区分 試掘・範囲確認調査

報告書 刊行未定

処置 本調査

立地

竹松遺跡は、郡川左岸の扇状地に位置し、新幹線の車両基地建設に伴って近年相次いで調査が行われている。今回の調査地点は、南北2箇所に分かれる。北側調査区は、郡川が北から西へと流路を変える地点で、川沿いの微高地の南側に東西に伸びる低地部を対象とした。南側調査区は、郡川左岸から西に延びる低丘陵の先端部付近を対象とした。



竹松遺跡位置図(武留路山) (S=1/25,000)

調査

都市計画道路建設予定地内に、2m×2mの調査坑23箇所設定して調査を行った。北側調査区の掘削は人力にて疊層まで掘り下げた後、疊層以下の遺構の有無を確認する目的で、重機により調査区の拡張や疊層以下の掘削を行った。土層は11世紀後半～12世紀頃の自然流路と思われる疊層の上位に、マンガン沈着砂質土と鉄分沈着砂質土が互層をなして堆積している。TP17およびTP19では、鉄分沈着層の上位で強粘質土が薄く堆積する部分があり、畔壁と見られる粘土の盛り上がりが確認できた。また、TP21では東西方向に伸びる石積み2条を確認した。いずれも時期は中世から近世と考えられる。南側調査区では、焼土や炭化物が伴う大型遺構(堅穴住居跡か)のほか、ピット群を検出した。いずれも弥生時代後期と考えられる。



TP19 水田畦畔検出状況

まとめ

今回の試掘範囲確認調査では、北側調査区では中世から近世にかけての石積み遺構や水田遺構を、南側調査区では弥生時代後期の堅穴遺物跡とピット群をそれぞれ検出した。そのため、遺構が残存する可能性が高い範囲(北側調査区4,500 m²、南側調査区980 m²、合計5,480 m²)については、本調査が必要と判断した。

【調査担当: 中尾・本田】(記: 中尾)

(16) 竹松遺跡 (たけまついせき)【遺跡調査番号: 201416】

所在地 大村市沖田町93-1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開連

調査面積 110 m²

調査期間 平成26年11月10日～平成27年1月8日

調査区分 試掘・範囲確認調査

報告書 刊行未定

処置 本調査

立地

竹松遺跡は、郡川左岸の扇状地に位置し、新幹線の車両基地建設に伴って近年相次いで調査が行われている。今回の調査地点は、郡川が北から西へと流路を変える地点で、川沿いの微高地の南側に東西に伸びる低地部を対象とした。現状では微高地には宅地が立ち並び、低地部は水田として利用されている。



竹松遺跡位置図(武留路山) (S=1/25,000)

調査

新幹線車両基地予定地内に、2m×2mの調査坑19箇所設定して調査を行った。掘削は人力にて疊層まで掘り下げた後、疊層以下での遺構の有無を確認する目的で、重機により調査区の拡張や疊層以下の掘削を行った。土層は11世紀後半～12世紀頃の自然流路と思われる疊層の上位に、マンガン沈着砂質土と鉄分沈着砂質土が互層をなして2～3パターン堆積している。断続的な水性堆積を繰り返しながら徐々に陸化し、水田などの耕作地として利用されたことが考えられる。遺物は弥生時代後期から中世までの遺物が出土しているが、いずれも二次堆積であり量も少ない。

まとめ

今回の試掘範囲確認調査では、遺構、遺物とともに明らかにはできなかったが、土層の堆積状況から、中世の自然流路が陸化する過程で、中世から近世にかけて耕作地として利用されている可能性は考えられた。そのため、耕作地が残存する可能性が高い2,800 m²については、本調査が必要と判断した。



TPT7 東壁土層堆積状況

【調査担当: 中尾・本田】(記: 中尾)

(17) 竹松遺跡 (たけまついせき)【遺跡調査番号: 201419】

所在地 大村市竹松町 653 番地 4

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 市道拡幅

調査面積 106 m²

調査期間 平成 26 年 11 月 28 日～12 月 25 日

調査区分 本調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

竹松遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代から中世の包蔵地として周知されている。遺跡は郡川によって形成された大村扇状地の北側扇端付近に位置する。調査地周辺の地形は南東から北西に緩やかに傾斜した平地地形を呈しており、標高は 17m 前後である。現在、周辺は宅地や田畠として利用される一方で、事業対象地については新幹線関連工事が進捗中である。



竹松遺跡位置図【武留山】(S=1/25,000)

調査

本調査における検出遺構は溝状遺構 1 条である。溝状遺構の幅は上端で 230cm、深さは約 60～80cm を計測した。南から北にかけて徐々に深さが増しており、途中北側に向けて一段落ちる構造が確認できる。溝状遺構の下端および周辺には円形に掘り込んだ跡が確認でき、覆土の最下層とその上層に砂礫が見られる。出土遺物は弥生土器、土師器、貿易陶磁器、近世陶磁器、近現代の陶器合わせて 14 点である。このうち包含層から出土したもの 3 点で、残り 11 点は表面採集であり、溝状遺構からの遺物出土はなかった。



溝状遺構完掘状況（北から）

まとめ

今回の調査では南北方向に溝状遺構が存在し、またそれがさらに南北方向に続く可能性があることが確認できた。検出した溝状遺構の時代や性格については、溝状遺構の構造や調査地周辺の土地利用の歴史から明治末から戦前にかけての桑畑の排水暗渠遺構である可能性もあるが、溝状遺構からの遺物出土がないことから現在のところ不明である。今後の近隣地の調査成果に基づく再評価が必要である。

【調査担当：濱村・小川・竹本・東郷】(記：濱村)

(18) 竹松遺跡 (たけまついせき)【遺跡調査番号: 201426】

所在地 大村市竹松町 885 番地 3 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 都市計画道路「池田沖田線」建設

調査面積 16 m²

調査期間 平成 27 年 1 月 26 日～2 月 20 日

調査区分 範囲確認調査

報告書 刊行予定なし

処置 調査後工事

立地

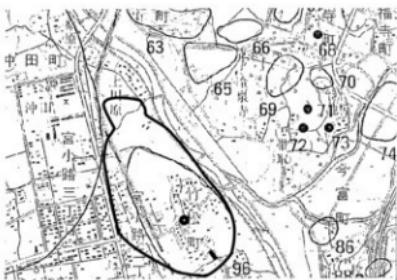
竹松遺跡は、郡川左岸に位置し、大村扇状地の東端から北端部に立地する。近年新幹線の車両基地建設に伴って近年相次いで調査が行われているが、今回の調査地点は、郡川に沿って伸びる微高地上に位置し、主に宅地として利用されている。

調査

都市計画道路建設予定地内に、2m×2m の調査坑を 4箇所設定し、人力により扇状地疊層まで掘り下げた。TP4 の 1 層でわずかにかわらけや青磁片など中世の遺物が少量出土した以外は、遺構・遺物ともに検出できなかった。1 层は耕作土であり、安定した包含層ではないと判断できる。

まとめ

今回の範囲確認調査では、明確な遺構・遺物ともに検出されなかった。そのため工事に支障はなく、慎重工事で対応した。



竹松遺跡位置図(武留路山) (S=1/25,000)



調査風景

【調査担当: 中尾・本田】(記: 中尾)

(19) 大堂遺跡 (だいどういせき)【遺跡調査番号: 201401】

所在地 大村市皆同町 70番1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開通

調査面積 149 m²

調査期間 平成26年5月13日～5月28日

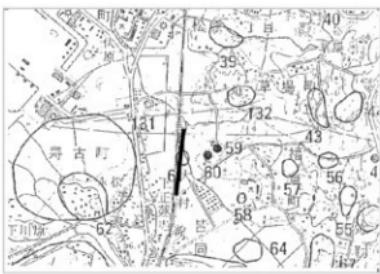
調査区分 試掘・範囲確認調査

報告書 刊行予定なし

処置 調査後工事

立地

大堂遺跡は、多良山系から西側から伸びる丘陵に沿って北流する二級河川よし川の左岸に立地する。調査以前における遺跡のひろがりは、よし川が北西方向から北方向に流れを変える湾曲地点を中心に、直径約90mの円形に展開すると推測されていた。なお、圃場整備に伴って昭和51(1976)年に調査が行われ、旧河道状の二次堆積層から、5世紀～7世紀にかけての須恵器・土師器などが採集されている。



大堂遺跡位置図〔蘇留路山〕(S=1/25,000)

調査

調査は、遺跡内および隣接地を含む新幹線路線建設予定地内の幅12m、長さ330mの範囲に、TP0からTP12まで13箇所のトレンチを設定して調査を行った。トレンチの規模は2m×5mを基本としたが、TP1については、遺物出土状況に応じて東に1.5m、西に0.5m、南に6.0m拡張して調査を行った。基本土層は南北で大きく異なり、TP6～TP13では水田床土および客土の直下から河川疊層を検出した。一方、TP1～TP5では、水田床土および客土の下から青灰色粘質土や青灰色砂質土が堆積し、弥生時代中期や5～7世紀の土器がわずかに確認できることから、よし川が北側に流路を変える部分を境として、主に北側で氾濫原が形成され、粘土層および砂質土層が堆積したと考えられる。遺物は、TP1を除くトレンチではほとんど客土からの出土であるが、TP1からは、標高1.5～1.0m付近で、5世紀前半を中心とする土師器および曲柄平銀や曲柄又鍬などの木製品を含む2枚の包含層を確認した。



TP1 木製品出土状況

まとめ

大堂遺跡では、TP1で5世紀前半の包含層を確認したが、その範囲は限定的で、工事予定地内の包含層についてはほぼ遺物の取り上げを終了したことから、今回の調査範囲での本調査の必要はなく、慎重工事で対応した。

【調査担当: 中尾・本田】(記: 中尾)

(20) 今富城跡 (いまどみじょうあと) 【遺跡調査番号: 201409】

所在地 大村市皆同町 486 番 10 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線関連

調査面積 34 m²

調査期間 平成 26 年 7 月 7 日～8 月 29 日

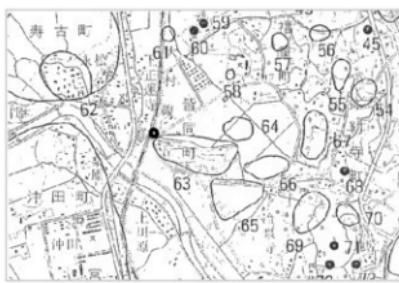
調査区分 試掘調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

今富城跡は、多良山系から西に派生する標高 20m 程度の丘陵上に位置し、郡川および大村扇状地に隣接する中世の山城である。山城の詳細な構造は不明であるが、平成 19 年の大村市による調査で、城郭の北側で東西方向に伸びる空堀と土塁の一部を検出している。現状では山城本体は山林に覆われているが、城跡周辺の低地部一帯は宅地、田畠として利用されている。



今富城跡位置図(武留路山) (S=1/25,000)

調査

調査は、新幹線の路線建設予定地のうち、公有地および地権者の同意が得られた低地部での遺構の広がりを確認する目的で実施した。2m×5m の調査坑を 3 箇所、2m×2m の調査坑を 1 箇所設定し、掘削をおこなった。TP1・TP2 では、表土直下で 10～30cm 程度の整地層や、これに伴う土坑や石列を確認したが、いずれも近現代の遺物が出土したことから、新しい時期の建物に伴う搅乱と判断した。TP3・TP4 では、表土直下で地山を検出し、遺構・遺物ともに確認できなかった。

まとめ

今回の調査地点では遺構・遺物ともに確認できなかった。しかし、工事予定地には山城本体の一部にかかるところから、この部分については本調査が必要と判断した。また、今回調査は行えなかつたが、隣接する宅地には中世の石塔が存在し、周辺にはこの時期の遺構が残存する可能性も残されているため、低地部において引き続き試掘調査を行いうことが望ましいと判断した。



TP1 作業風景

【調査担当: 中尾・本田】(記: 中尾)

(21) 三城城下跡（さんじょうじょうかあと）【遺跡調査番号：201411】

所在地 大村市諏訪2丁目185番他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開連

調査面積 80 m²

調査期間 平成26年7月7日～8月29日

調査区分 範囲確認調査

報告書 刊行未定

処置 本調査

立地

三城城下跡は、多良山系から西側に派生する標高40mほどの丘陵上に位置する三城城の北側に位置し、東から西に流れる2級河川大上戸川によって形成された小規模な扇状地に立地する。現存する近世の古地図から、街区や道路などが良好に残されていることが判明している。



三城城下跡位置図【武留路山】(S=1/25,000)

調査

対象となった調査箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地のうち、JR 大村線の線路を挟んだ東側一帯である。諏訪駅周辺の南北約40mの範囲をA地点、乾馬場周辺の南北約70mの範囲をB地点とし、それぞれ4箇所、5箇所の調査坑を設定して掘り下げた。

A地点は近現代のかく乱が著しく、遺構・遺物ともに確認できなかった。一方、B地点では、TP7～P9で土坑やピット、および石積遺構が確認できた。遺構内からは中世の土師質土器や青磁・白磁などが出土し、中世の遺構と考えられる。

まとめ

今回の調査では、A地点では遺構・遺物とともに確認できなかったため、慎重工事で対応した。一方、B区では中世の遺構・遺物を確認できたことから、本調査を行う必要があると判断した。



TP8 作業風景

【調査担当：中尾・本田】(記：中尾)

(22) (仮)小路口遺跡(おろぐちいせき)【遺跡調査番号: 201410】

所在地 大村市小路口町311番2他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線関連

調査面積 140 m²

調査期間 平成26年7月7日~8月29日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行予定なし

処置 調査後工事

立地

小路口遺跡は、郡川が形成した大村扇状地の扇央付近に位置する。周辺は宅地や田畠として利用されている。遺跡は縄文時代の包蔵地として周知されているが、今回の調査坑は包蔵地範囲の南東部に隣接する、JR大村線竹松駅東側で、沿線の南北約700mの範囲である。

調査

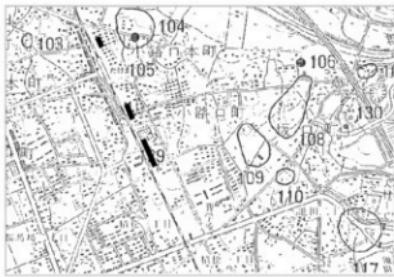
調査は、買収が済んだ土地を対象に、2m×5mの

調査坑を14箇所設定し、振削を行った。各調査坑の土層は、TP14で5層にわたる整然とした堆積をみたが、他の調査坑ではかく乱が著しく、近現代の造成土が厚く堆積する状況で、遺構は確認できなかった。また、TP6で縄文晩期土器および弥生土器がそれぞれ1点出土したものの、客土中からの出土であった。

まとめ

今回の調査地点では遺構・遺物ともに確認できなかった。

そのため、工事に支障はなく、慎重工事で対応した。



(仮)小路口遺跡位置図(武留路山)(S=1/25,000)



TP14 作業風景

【調査担当: 中尾・本田】(記: 中尾)

(23) 大忠平遺跡 (だいちゅうひらいせき)【遺跡調査番号: 201415】

所在地 大村市草場町664番他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線関連

調査面積 12 m²

調査期間 平成26年9月10日～9月24日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行予定なし

処置 調査後工事

立地

大忠平遺跡は、多良山系から西側に派生する丘陵の先端部付近に位置し、標高は22～23m前後である。西に大村湾から西彼杵半島、北に針尾瀬戸を望む眺望が開けた地点にあたる。また、西側低地部には湧水点があり、現在浄水場が設置されている。周辺の丘陵上には、南遺跡、下松尾遺跡、上松尾遺跡など縄文時代の埋蔵文化財包蔵地が点在しているが、これまで発掘調査はほとんど行われておらず、詳細は明らかになっていない。



大忠平遺跡位置図 [武留路山] (S=1/25,000)

調査

新幹線の路線予定地内の畠地に、2m×2mの調査坑3箇所 (TP1～TP3) を設定して調査を行った。掘削は人力にて行い、基盤層である風化疊層まで掘り下げた。調査では、近世の暗渠と思われる溝状構造を検出したものの、中世以前の構造は確認できなかつた。また、縄文時代晩期土器や黒曜石片が出土する包含層をTP1で検出したものの、小片ばかりで時期が判明できる大きさの土器はごくわずかなかつて、表面が剥落したり、破断面が丸みを帯びた個体ばかりであることから、二次堆積層と判断した。

まとめ

今回の調査では、中世以前の遺構は確認できなかつたうえ、確認できた遺物包含層も遺物の残存状態が悪く二次堆積層である可能性が高いため、慎重工事で対応した。



調査風景

【調査担当: 中尾・本田】(記: 中尾)

(24) 妙光寺跡（みょうこうじあと）【遺跡調査番号：201414】

所在地 大村市松原1丁目538番他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線関連

調査面積 8m²

調査期間 平成26年9月10日～9月24日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行予定なし

処置 調査後工事

立地

妙光寺跡は、多良山系から西側に派生する、標高30m前後の丘陵上に位置する。周辺は宅地や水田・畑地として利用されているが、近隣の宅地で中世の石塔が採集されていて、一帯が郡七山のひとつである妙光寺跡に比定されているため、路線予定地の試掘調査を実施した。

調査

新幹線路線予定地の畠地に、2m×2mの調査坑2箇所を設定して調査を行った。掘削は人力にて行ったが、水田床土直下で基盤層である風化疊層を検出し、近世陶磁器や黒曜石片がわずかに出土したもの、遺構は確認できなかった。

まとめ

今回の調査では、遺構は確認できず、遺物もきわめて貧弱であったため、慎重工事で対応した。



妙光寺跡位置図（武留路山）(S=1/25,000)



作業風景

【調査担当：中尾・本田】(記：中尾)

(25) 西の谷遺跡（にしのたにいせき）【遺跡調査番号：201418】

所在地 大村市松原3丁目12-1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線関連

調査面積 16 m²

調査期間 平成26年11月10日～平成27年1月8日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行未定

処置 調査後工事

立地

西の谷遺跡は、多良山系から西側に派生する丘陵先端部付近に位置し、標高は30m前後である。丘陵の南北には小河川が流れ、丘陵先端部付近で合流して西向きに流れる。また、西に大村湾から西彼杵半島を望む眺望が開けた地点にある。周辺は水田や畑地として利用されている。



西の谷遺跡位置図【武留路山】(S=1/25,000)

調査

新幹線の路線予定地内の畠地に、2m×2mの調査坑4箇所を設定して調査を行った。掘削は人力にて行い、基盤層である風化疊層まで掘り下げた。調査の結果、傾斜地を開墾する際の大規模な造成土が厚く堆積し、造成土直下で基盤疊層となることを確認した。遺構は確認できず、遺物は造成土中から石鐵や黒曜石片がわずかに出土した。

まとめ

今回の調査では、遺構は確認できなかつたうえ、わずかに出土した遺物も二次堆積の造成土からの出土であることから、慎重工事で対応した。



調査区近景

【調査担当：中尾・本田】(記：中尾)

(26) 沖田黒丸条里跡（おきたくろまるじょうりあと）【遺跡調査番号：201424】

所在地 大村市宮小路3丁目 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 県立ろう学校移転

調査面積 64 m²

調査期間 平成27年1月26日～2月20日

調査区分 範囲確認調査

報告書 刊行未定

処置 本調査

立地

沖田黒丸条里跡は、郡川左岸に位置し、大村扇状地の北端から郡川下流の三角州にかけて立地する。黒丸遺跡では、これまで縄文時代晩期のドングリ貯蔵穴群や弥生時代中期の壺棺を主体とする墓域が出土したほか、北部の郡川流域では古代の条里跡が残っている。今回の調査地点は郡川が形成した三角州の南端部にあたり、埋蔵文化財包蔵地の東端に位置する。



沖田黒丸条里跡（武留路山）(S=1/25,000)

調査

県立ろう学校建設予定地内に、2m×2mの調査坑11箇所、2m×5mの調査坑2箇所を設定して調査を行った。掘削は人力にていわゆる「古土層」まで掘り下げた後、「古土層」以下の遺構の有無を確認する目的で、一部重機で深掘りを行った。土層は現耕作土直下に近現代の造成土が40～50cm堆積し、その下にマンガンや鉄分が沈着する砂質土とこれらを含まない黄灰褐色砂質土が互層をなすパターンが典型である。調査の結果、古墳時代前期の溝状遺構や包含層を確認したほか、古墳時代以前の土坑や水田畠畔、縄文時代晩期～弥生時代のピットを検出した。これらはそれぞれ層序を違えて検出した。

まとめ

今回の範囲確認調査では、縄文時代晩期から弥生時代、古墳時代にかけて、3面の遺構面を確認することができた。そのため、遺構が残存する可能性が高い600 m²は本調査が必要と判断した。



調査箇所近景

【調査担当：中尾・本田】(記：中尾)

(27) 平野遺跡（ひらのいせき）【遺跡調査番号：201425】

所在地 大村市鬼橋町21番地1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 都市計画道路「池田沖田線」建設

調査面積 16 m²

調査期間 平成27年1月26日～2月20日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行未定

処置 本調査（但し範囲は保留）

立地

平野遺跡は、郡川左岸に位置し、大村扇状地の東端部に立地する。今回の調査地点は、郡川に沿って延びる微高地上に位置し、主に宅地として利用されている。

調査

都市計画道路建設予定地内に、2m×2mの調査坑を4箇所設定し、人力により扇状地疊層まで掘り下げた。いずれの調査坑でも50cm以上擾乱層が堆積しており、安定した堆積はほとんど確認できなかった。ただ、TP2の5層黄褐色土層でピット1基を確認した。時期は不明であるが、掘り込みがしっかりしており、人為的な遺構であると判断した。遺物はTP2から中世の白磁がわずかに出土したのみである。

まとめ

今回の試掘調査では、TP2で人為的なピットを確認することができた。この調査坑の周辺には何らかの遺構が残存する可能性は高いが、周辺の試掘・範囲確認調査が現状では不十分であり、本調査範囲を絞り込むことはできないと判断した。今後の調査を待って本調査範囲を確定させる必要がある。



平野遺跡位置図（武留路山）(S=1/25,000)



調査区遠景

【調査担当：中尾・本田】（記：中尾）

(28) 立小路遺跡（たてしょうじいせき）【遺跡調査番号：201427】

所在地 大村市鬼橋町1169番地 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 都市計画道路「池田沖田線」建設

調査面積 24 m²

調査期間 平成27年1月26日～2月20日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行未定

処置 本調査

立地

立小路遺跡は、郡川左岸に位置し、大村扇状地の東端から郡川が形成した氾濫原にかけて立地する。今回の調査地点は、南北の微高地に挟まれた氾濫原で、周知の埋蔵文化財包蔵地である立小路遺跡の北側に隣接する。現在は水田として利用されている。

調査

都市計画道路建設予定地内に、2m×2mの調査坑

を6箇所設定し、人力により扇状地疊層まで掘り下げた。TP1やTP6では扇状地疊層直上の5層でピットを確認した。また、TP4では4層でピットを確認したが、TP5では同じ層から弥生時代中期初頭の城ノ越式の甕口縁部や弥生後期土器片などがまとまって出土していて、この時期の遺構が存在するものと思われる。また、TP5～TP6の3層からは古代の須恵器大甕がまとまって出土していて、この時期の遺物包含層もしくは遺構が存在する可能性がある。

まとめ

今回の試掘調査では、弥生時代および縄文時代晚期と思われるピット群を検出した。また、古代の遺構もしくは包含層が存在する可能性も考えられることから、これらが残存する可能性が高い1,700 m²について、本調査が必要と判断した。



立小路遺跡 [武留路山] (S=1/25,000)



TP5 2層遺物出土状況

【調査担当：中尾・本田】(記：中尾)

(29) 岸高遺跡（きしたかいせき）【遺跡調査番号：201429】

所在地 大村市中里町107番他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開連

調査面積 36 m²

調査期間 平成27年2月9日～3月6日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行なし

処置 調査後工事

立地

岸高遺跡は大村市中里町に所在し、旧石器時代および縄文時代の包藏地として周知されている。今回の調査地は岸高遺跡の所在する丘陵部の西側に隣接する場所であり、多良山系を源流とする鈴田川の谷底平野に立地し、標高は25～30mほどである。現在は谷底平野地形を利用した水田となっている。



岸高遺跡位置図〔諫早〕(S=1/25,000)

調査

周知の埋蔵文化財包藏地『岸高遺跡』の西側に隣接する場所に計画された九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の路線予定地について、2m×2mのトレンチを9箇所設定し試掘調査を実施した。基本層序は、各トレンチで若干の相違はあるものの、耕作土（1層）、1層と3層の混土層（2層）、褐色粘質土で耕作土と床土の混土層（3層）、橙色粘質土の床土（4層）、にぶい赤褐色粘質土で拳大～径50cmの礫を多量に含む客土・造成土（5層）、赤褐色砂質土で人頭大～径50cmの礫を含む地山（6層）に整理できる。いずれのトレンチでも遺構は確認できなかった。また、遺物も極めて少量で、その大半が耕作土および造成土から出土し、造成土より下層からの出土は1点のみにとどまった。

まとめ

今回の調査では遺構は確認できず、遺物も極めて少量で遺物包含層の認定には至らなかった。調査地周辺は昭和32年の諫早（大村）大水害で被害を受け、その後復旧作業が行われており、客土・造成土は水害復旧を契機として、それ以後に構築されたものである可能性が極めて高い。また、水田として利用される以前の調査地周辺の環境については、客土・造成土の下の層において河川堆積と思われる人頭大以上の礫を含む砂質土層を確認していることから、鈴田川の氾濫原であったと考えられる。



調査地遠景（南から）

【調査担当：山梨・濱村】（記：濱村）

(30) 平ノ前城跡（ひらのまえじょうあと）【遺跡調査番号：201428】

所在地 大村市小川内町 550 番 1 他

調査主体 長崎県教育委員会

調査担当 新幹線文化財調査事務所

調査原因 新幹線開通

調査面積 36 m²

調査期間 平成 27 年 2 月 9 日～3 月 6 日

調査区分 試掘調査

報告書 刊行未定

処置 一部本調査

立地

平ノ前城跡は大村市小川内町に所在する。遺跡は多良山系から延びる火山麓扇状地先端の丘陵上に位置し、丘陵より東側には鈴田川の谷底平野が広がり、西側は小川内川による開析谷となる。標高は 27m～45m 程度である。現在、丘陵部は山林、谷底平野と開析谷の低地部は水田や宅地となっている。



調査地点位置図【諫早】(S=1/25,000)

調査

対象地に計画された九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の路線予定地について、平成 21 年度に行われた分布調査の際に丘陵部に未周知の山城の遺構が確認されたことに伴い、今回は丘陵上の山城部と周辺低地部について合計 10箇所のトレンチを設定し試掘調査を実施した。丘陵部で検出した遺構は堀切、曲輪、土壘である。このうち堀切は地山を削り出して構築されている。丘陵部からは近世陶磁器を含むごく少量の遺物が出土した。低地部の基本層序は耕作土（1 層）、床土（2 層）、灰～黄灰色粘質土（3 層）、にぶい黄褐色～黒褐色粘質土（4 層）、にぶい黄褐色を呈する地山（5 層）となる。なお、湧水により地山（5 層）に到達する前に調査を終了したトレンチがある。低地部のトレンチで遺構は確認できず、出土遺物も耕作土および客土からである。



調査風景

まとめ

今回の調査では丘陵部で堀切、曲輪、土壘を確認し、これら検出された各遺構の状況から本丘陵部は中世の山城跡であると考えられる。しかし、丘陵部での出土遺物は近世陶磁器を含む極めて少量にとどまり、中世の山城として機能していた年代の特定には至らなかった。低地部においては、遺構は確認できず出土遺物もすべて耕作土および客土からであった。現在の小川内川に近いトレンチにおいて湧水点直上で 50 cm 以上の大きさの巨礫を含む砂礫の堆積が確認できたことから、低地部の小川内川に近い場所は旧河道であった可能性がある。

【調査担当：山梨・濱村】（記：濱村）

報告書抄録

ぶりがな	ながさきけんmaiぞうぶんかざいちょうさねんぼう23
書名	長崎県埋蔵文化財調査調査年報23
前書名	平成26年度調査分
巻次	23
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第15集
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1 TEL0920 (45) 4080
発行年月日	2016年3月31日

所収遺跡名	所在地	遺跡コード		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市 町	遺跡 番号			
富の原（常盤）遺跡	大村市	42205	091	20140602～20140606	24.0	自動車教習所の新設工事
彌ヶ島白浜遺跡	新上五島町	42441	048	20140817～20140822	7.0	電線等地中化作業
裏島海底遺跡	松浦市	42208	162	20140817～20140826	10,000.0	保存（潜水分布調査）
原の辻遺跡	壱岐市	42210	424	20141014～20150108	500.0	保存
野口遺跡	川棚町	42322	011	20141110～20141120	24.0	農業基盤整備事業
野口前遺跡	川棚町	42322	010	20141110～20141120	53.0	農業基盤整備事業
小手田遺跡	平戸市	42207	304	20141125～20150227	1,508.0	道路
下羽付遺跡	佐世保市	42202	430	20150302～20150306	16.0	道路
竹松遺跡	大村市	42205	086	20140528～20141020	6,320.0	鉄道
竹松遺跡	大村市	42205	086	20140530～20150210	7,720.0	鉄道
竹松遺跡	大村市	42205	086	20140528～20150227	9,487.0	鉄道
竹松遺跡	大村市	42205	086	20140703～20150209	4,920.0	鉄道
竹松遺跡	大村市	42205	086	20140701～20150306	6,876.0	鉄道
竹松遺跡	大村市	42205	086	20140701～20150114	2,900.0	道路
竹松遺跡	大村市	42205	086	20141110～20150108	113.0	道路
竹松遺跡	大村市	42205	086	20141110～20150108	110.0	鉄道
竹松遺跡	大村市	42205	086	20141128～20141225	106.0	道路
竹松遺跡	大村市	42205	086	20150126～20150220	16.0	道路
大堂遺跡	大村市	42205	178	20140513～20140528	149.0	鉄道
今富城跡	大村市	42205	055	20140707～20140829	34.0	鉄道
三城城下跡	大村市	42205	199	20140707～20140829	80.0	鉄道
(仮) 小路口遺跡	大村市	42205	092	20140707～20140829	140.0	鉄道
大忠平遺跡	大村市	42205	032	20140910～20140924	12.0	鉄道
妙光寺跡	大村市	42205	未登載	20140910～20140924	8.0	鉄道
西の谷遺跡	大村市	42205	027	20141110～20150108	16.0	鉄道
沖田黒丸条里跡	大村市	42205	109	20150126～20150220	64.0	学校建設
平野遺跡	大村市	42205	088	20150126～20150220	16.0	道路
立小路遺跡	大村市	42205	089	20150126～20150220	24.0	道路
岸高遺跡	大村市	42205	171	20150209～20150306	36.0	鉄道
平ノ前城跡	大村市	42205	未登載	20150209～20150306	36.0	鉄道

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第15集

長崎県埋蔵文化財調査年報23
〔平成26年度調査分〕

2016年3月31日

発行 長崎県教育委員会
長崎市立戸町2番13号

印刷 鴻文社出版部
長崎県苔岐市郷ノ浦町本村572-7